

NEC Express5800シリーズ Express5800/56Xd

2

ハードウェア編

本装置のハードウェアについて説明します。

各部の名称と機能 (58ページ)

本体の各部の名称と機能についてパーツ単位に説明しています。

設置と接続 (65ページ)

本体の設置にふさわしい場所や背面のコネクタへの接続について説明しています。

基本的な操作 (71ページ)

電源のONやOFFの方法、およびフロッピーディスクやCD-ROMのセット方法などについて説明しています。

内蔵オプションの取り付け (83ページ)

別売の内蔵型オプションを取り付けるときにご覧ください。

ケーブル接続 (110ページ)

本体内部のケーブル接続例を示します。背面にあるコネクタへのケーブル接続については「設置と接続」を参照してください。

BIOSのセットアップ (121ページ)

専用のユーティリティを使ったBIOSの設定方法について説明しています。

リセットとクリア (149ページ)

リセットする方法と内部メモリ(CMOS)のクリア方法について説明します。

割り込みラインとI/Oポートアドレス (152ページ)

I/Oポートアドレスや割り込み設定について説明しています。

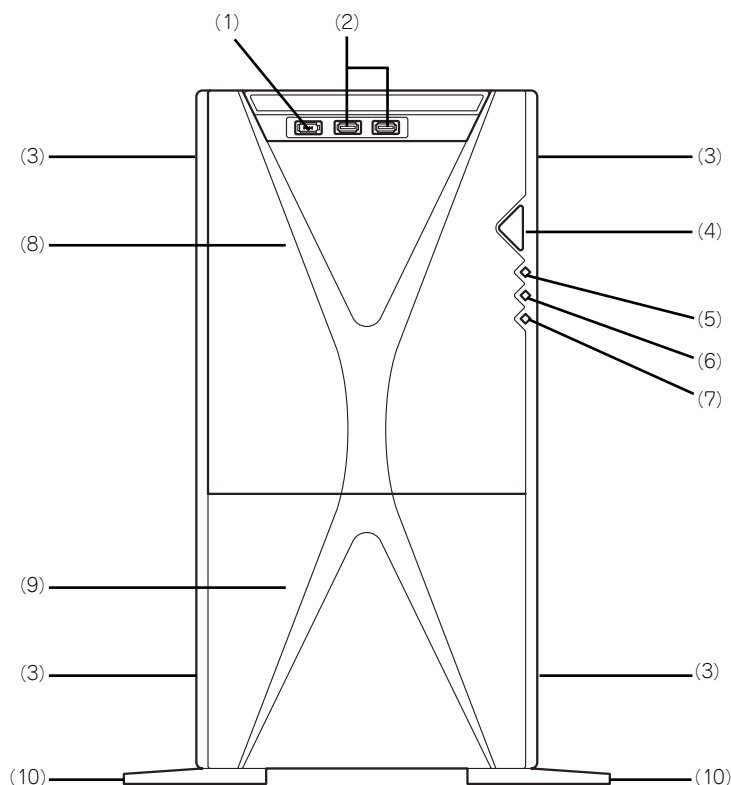
Setup Utility (154ページ)

LSI Logic Embedded MegaRAID™に常駐するためのコンフィグレーションツール、LSI Logic Software RAID Setup Utilityについて説明しています。

各部の名称と機能

本体の各部の名称を次に示します。

本体前面



(1) IEEE1394コネクタ

IEEE1394コネクタを持つ装置と接続する (→68ページ)。

対応するソフトウェア (ドライバ) が必要です。

(2) USBコネクタ (2ポート)

USBインタフェースを持つ装置と接続する (→68ページ)。

対応するソフトウェア (ドライバ) が必要です。

(3) リリースタブ (左右側面に各2個)

フロントマスクを取り外す際に押す解除タブ (→67ページ)。

(4) POWER/SLEEPスイッチ

本体の電源をON/OFFするスイッチ。一度押すとPOWERランプが点灯し、ONの状態になる。もう一度押すとOFFの状態になる (→71、75ページ)。

OSの設定により省電力 (スリープ) の切り替えをする機能を持たせることもできる。設定後、一度押すと、SLEEPランプが点灯し、省電力モードになる。もう一度押すと、通常の状態になる (搭載されているオプションボードによっては、機能しないものもある)。

(5) POWERランプ (緑色)

電源をONにすると緑色に点灯する (→63ページ)。

(6) DISKアクセスランプ (緑色)

取り付けられているSCSI機器が動作しているときに点灯する (→63ページ)。

(7) SLEEPランプ (橙色)

省電力モード (スリープ) で動作しているときに点灯する (→63ページ)。

(8) フロントドア

ファイルデバイス (光ディスクドライブ、フロッピーディスクドライブ、5.25インチデバイス (オプション)) を保護するカバー。

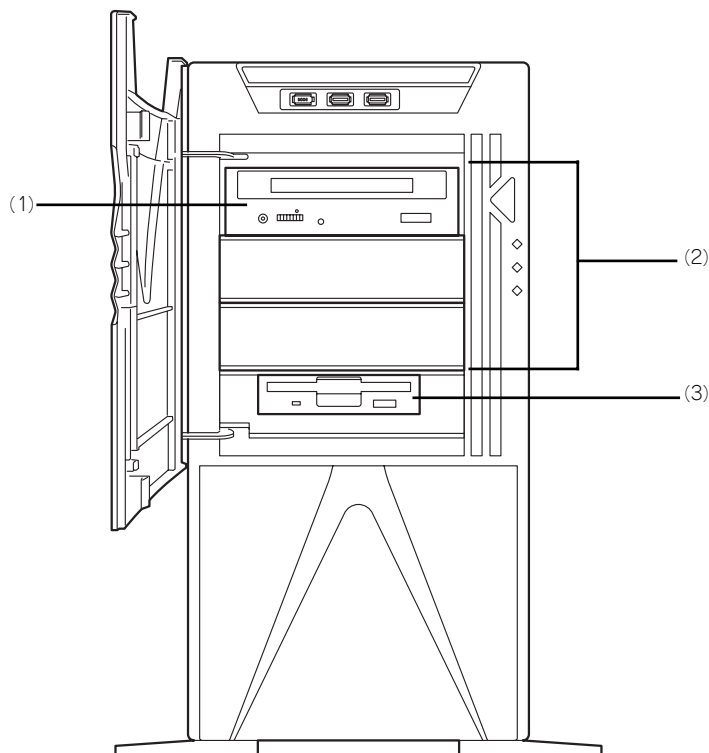
(9) フロントマスク

装置前面を保護するカバー。

(10) スタビライザ (2個)

本装置を設置場所に固定する (→65ページ)。

装置前面（フロントドアを開いた状態）



(1) 光ディスクドライブ

セットしたディスクのデータの読み出し（または書き込み）を行う（→78ページ）。モデルや購入時のオーダーによって以下のドライブが標準で搭載される。

- CD-ROMドライブ
- CD-R/RW with DVD-ROMドライブ
- DVD-ROMドライブ
- DVD Super MULTIドライブ

各ドライブには、トレイをイジェクトするためのオープン/クローズボタン、ディスクへのアクセス状態を表示するアクセスランプ（アクセス中に点灯）、トレイを強制的にイジェクトさせるための強制イジェクトホールが装備されている。

(2) 5.25インチデバイスベイ

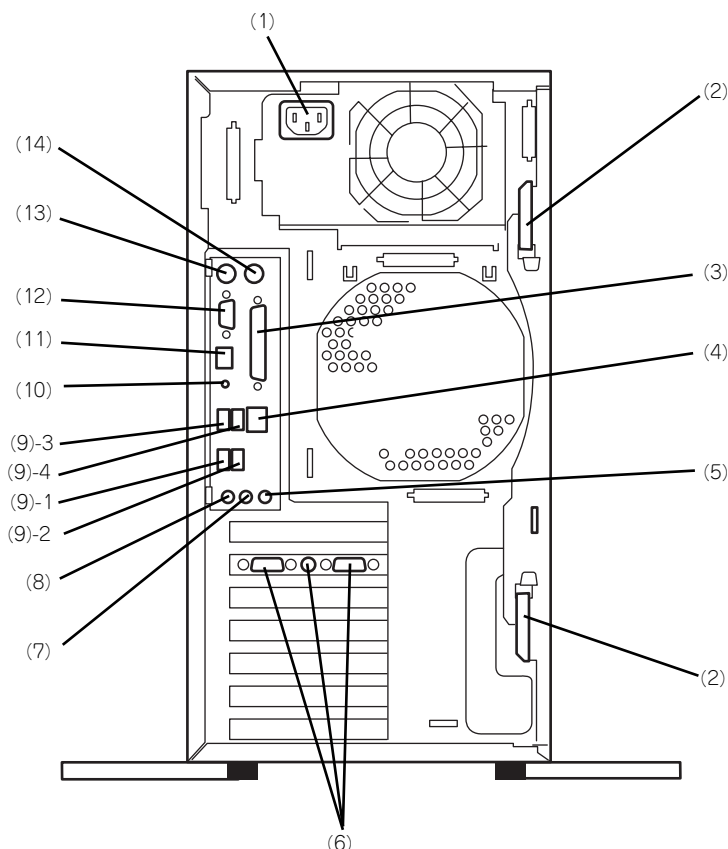
オプションのDAT（デジタルオーディオテープ）ドライブや光磁気ディスクドライブなどを取り付ける場所（→106ページ）。一番上のベイには、光ディスクドライブを標準で装備。

(3) 3.5インチフロッピーディスクドライブ

3.5インチフロッピーディスクを挿入して、データの書き込み/読み出しを行う装置（→76ページ）。

ドライブには、フロッピーディスクをイジェクトするためのイジェクトボタン、フロッピーディスクへのアクセス状態を表示するアクセスランプ（アクセス中は緑色に点灯）が装備されている。

装置背面



(1) 電源コネクタ

添付の電源コードを接続する (→70ページ)。

(2) イジェクトレバー

左側のサイドカバーを取り外すときに使うレバー (→85ページ)。

(3) プリンタポートコネクタ

セントロニクスインタフェースを持つプリンタと接続する (→70ページ)。

(4) 100BASE-T/100BASE-TX/ 10BASE-Tコネクタ

LAN上のネットワークシステムと接続する (→70ページ)。コネクタにあるランプの表示についてはこの後の「ランプ表示」を参照。

(5) マイクコネクタ

マイクの端子を接続する (→70ページ)。

(6) モニタコネクタ

ディスプレイ装置を接続する (→70ページ)。

(7) ラインインコネクタ

ラインアウト端子を持つ機器 (オーディオ機器など) と接続する (→70ページ)。

(8) ラインアウトコネクタ (ヘッドフォン兼用)

ラインイン端子を持つ機器 (オーディオ機器など) と接続する (→70ページ)。

(9) USBコネクタ (括弧数字の後の数字は USB番号を示す)

USBインタフェースを持つ装置と接続する (→70ページ)。

対応するソフトウェアが必要です。

(10) DUMPスイッチ

障害発生時にメモリの内容をダンプし、採取する (→243ページ)。

(11) IEEE1394コネクタ

IEEE 1394インタフェースを持つ装置を接続する (→69ページ)。

対応するソフトウェアが必要です。

(12) シリアルポートコネクタ

シリアルインタフェースを持つ装置を接続する (→70ページ)。なお、本体標準のシリアルポートは専用線接続は不可です。

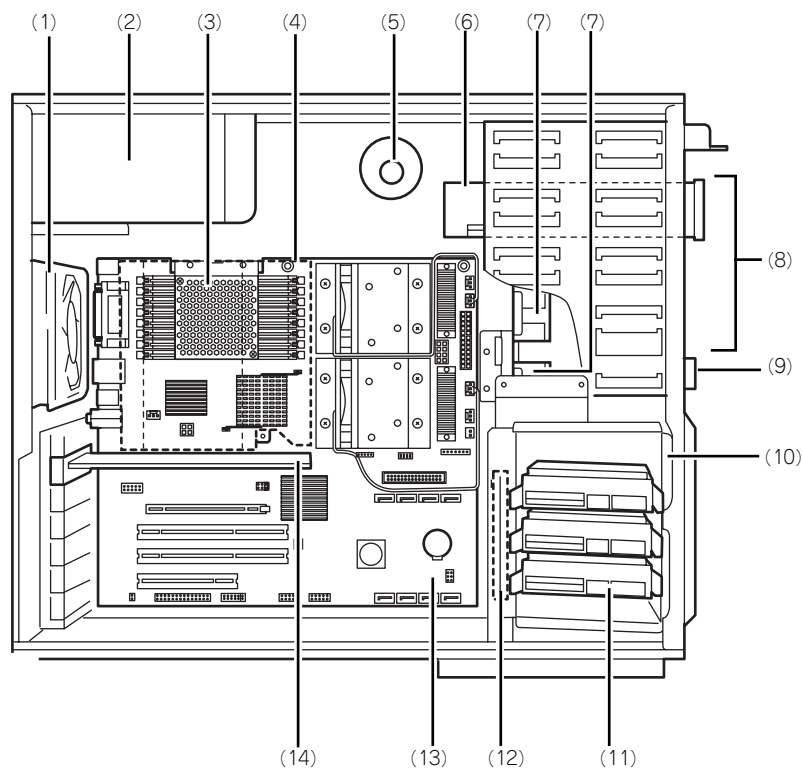
(13) キーボードコネクタ

添付のキーボードを接続する (→70ページ)。

(14) マウスコネクタ

添付のマウスを接続する (→70ページ)。

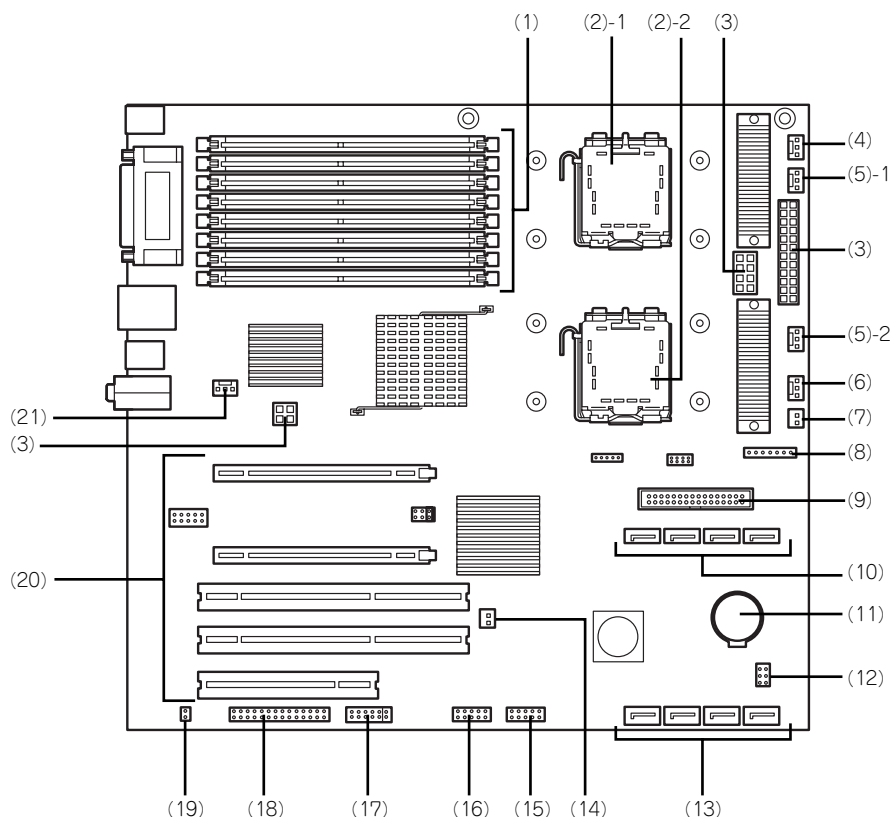
装置内部



- | | |
|--|---------------------------------------|
| (1) 冷却ファン（リア） | (8) 5.25インチデバイスベイ（一番上に光ディスクドライブを標準装備） |
| (2) 電源ユニット | (9) 3.5インチフロッピーディスクドライブ |
| (3) メモリ用ファン | (10) ハードディスクベイ |
| (4) ダクト | (11) 3.5インチハードディスクドライブ |
| (5) スピーカ | (12) 冷却ファン（フロント） |
| (6) 光ディスクドライブ（購入時のオーダーによって搭載されているドライブのタイプは異なる） | (13) マザーボード |
| (7) 冷却ファン（VR用） | (14) グラフィックスアクセラレータボード |

マザーボード

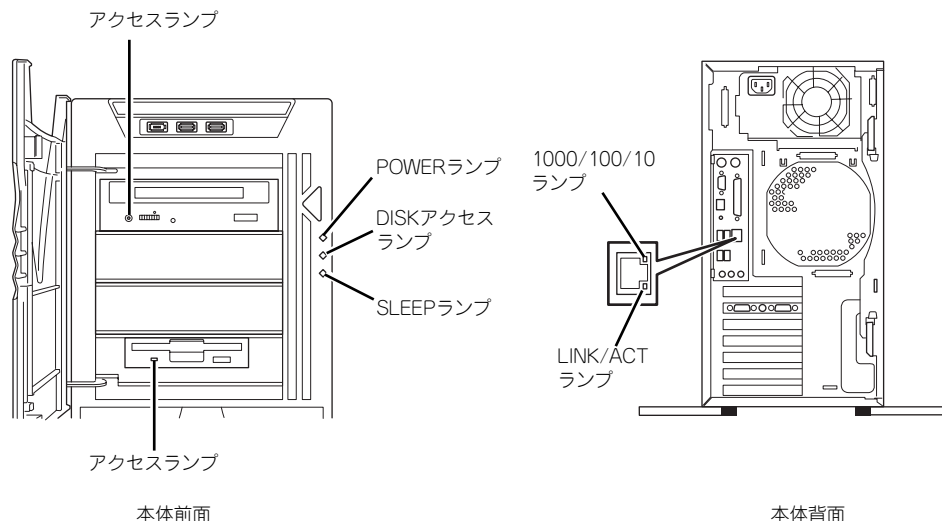
マザーボード上のコネクタの一と名称を示します。(ここでは本装置のアップグレードや保守(部品交換など)の際に使用するコネクタのみあげています。その他のコネクタや部品については出荷時のままお使いください。)



- | | |
|--|--|
| <p>(1) DIMMコネクタ (上から#42→#22→#41→#21→#32→#12→#31→#11) 標準で#11と#12にDIMMが搭載されている。</p> <p>(2) プロセッサ (CPU)ソケット (括弧数字の後の数字はCPU番号を示す。1が標準CPU、2が増設CPU)</p> <p>(3) 電源コネクタ</p> <p>(4) VRファン用コネクタ</p> <p>(5) CPUファンコネクタ (括弧数字の後の数字はCPU番号を示す)</p> <p>(6) フロントファンコネクタ</p> <p>(7) POWER LED用コネクタ</p> <p>(8) スイッチLED用コネクタ</p> <p>(9) IDE1コネクタ (光ディスクドライブ用)</p> <p>(10) SATAコネクタ (左から#4→#3→#2→#1)</p> <p>(11) リチウムバッテリー</p> <p>(12) SAS RAID設定用ジャンプスイッチ</p> | <p>(13) SASコネクタ (左から#1→#2→#3→#4)</p> <p>(14) RAID LEDコネクタ</p> <p>(15) フロントUSB用コネクタ</p> <p>(16) フロントIEEE1394用コネクタ</p> <p>(17) SATA RAID/CMOSメモリクリア用ジャンプスイッチ</p> <p>(18) フロッピーディスクドライブ用コネクタ</p> <p>(19) スピーカ用コネクタ</p> <p>(20) PCIボードスロット (5スロット。上からPCI#1→PCI#2→PCI#3→PCI#4→PCI#5。)</p> <p>PCI#1/PCI#2 : PCI EXPRESSインタフェース (#1はグラフィックスアクセラレータ用)</p> <p>PCI#3/PCI#4 : PCI-X 64bit/133MHz/3.3Vインタフェース</p> <p>PCI#5 : PCI 32bit/33MHz/5Vインタフェース</p> <p>(21) リアファンコネクタ</p> |
|--|--|

ランプ表示

本装置のランプの表示とその意味は次のとおりです。



POWERランプ

本装置の電源がONの間、POWERランプが緑色に点灯します。電源が本装置に供給されていないとPOWERランプが消灯します。また、省電力モード中でも消灯します（SLEEPランプが点灯します）。

DISKアクセスランプ

DISKアクセスランプは本装置内部のハードディスクドライブにアクセスしているときに点灯します。

フロッピーディスクドライブ、光ディスクドライブのアクセスランプは、それぞれにセットされているディスクやCD-ROMにアクセスしているときに点灯します。



BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューにある「ACPI Suspend Type」を「S1」に設定して、OS上からスタンバイ状態にした場合は、点灯状態になります。

SLEEPランプ

本装置が省電力モードに切り替わるとSLEEPランプが点灯します。

省電力モードは本装置のPOWER/SLEEPスイッチを押すと起動します。また、OSによっては一定時間以上、本装置を操作しないと自動的に省電力モードに切り替わるよう設定したり、OSのコマンドによって省電力モードに切り替えたりすることもできます。

1000/100/10ランプ

標準装備のLANポートは、1000BASE-T（1Gbps）と100BASE-TX（100Mbps）、10BASE-T（10Mbps）をサポートしています。

このランプは、ネットワークポートの通信モードがどのネットワークインタフェースで動作されているかを示します。橙色に点灯しているときは、1000BASE-Tで動作していることを、緑色に点灯しているときは100BASE-TXで動作していることを示します。消灯しているときは、10BASE-Tで動作していることを示します。

LINK/ACTランプ

本体標準装備のネットワークポートの状態を表示します。本体とハブに電力が供給されていて、かつ正常に接続されている間、緑色に点灯します（LINK）。ネットワークポートが送受信を行っているときに緑色に点滅します（ACT）。

LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルの状態やケーブルの接続状態を確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク（LAN）コントローラが故障している場合があります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

設置と接続

本体の設置と接続について説明します。

設置

注意

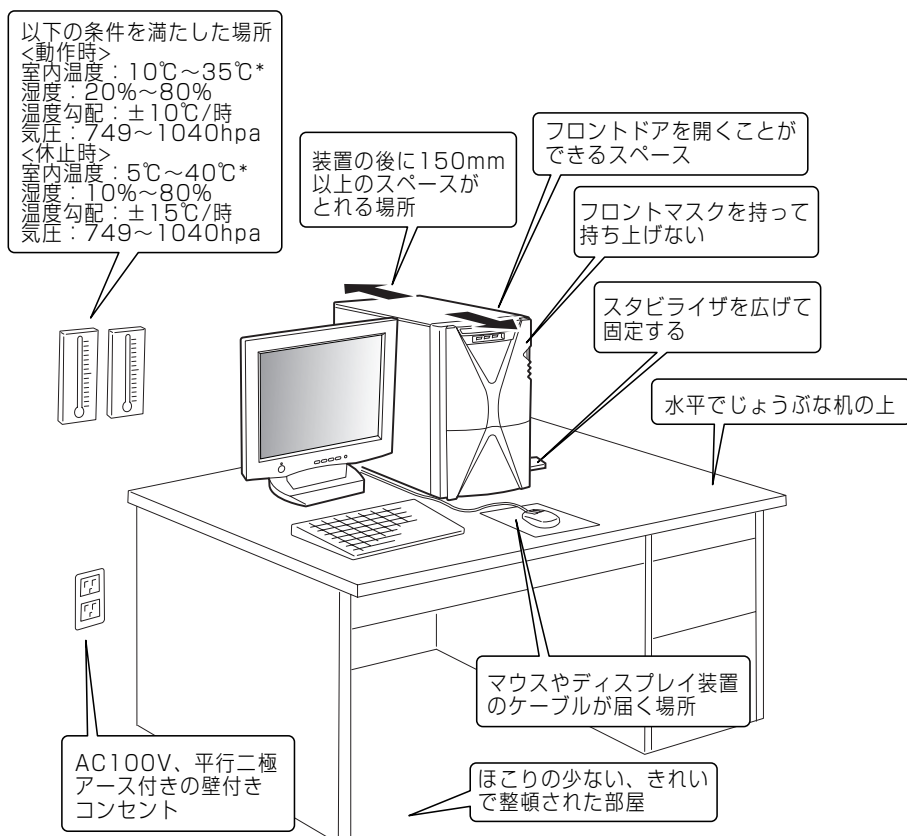


装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

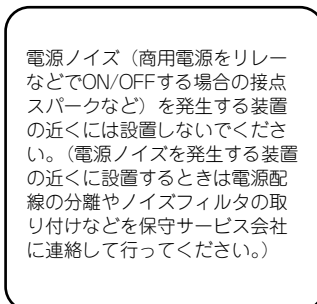
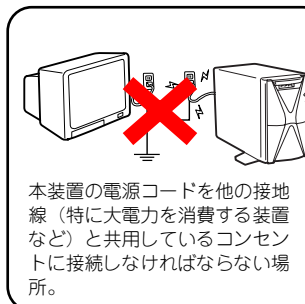
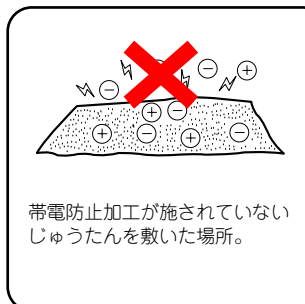
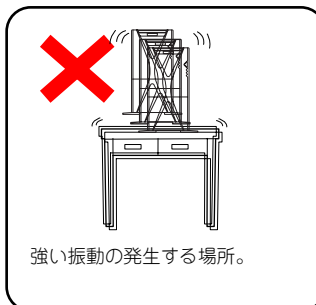
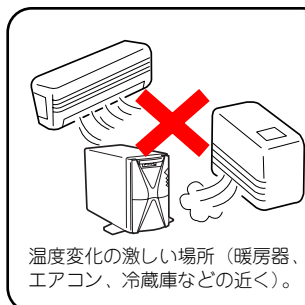
- 一人で持ち上げない
- フロントマスクを持って運ばない
- 指定以外の場所に設置・保管しない

設置場所について

本体の設置にふさわしい場所は次のとおりです。

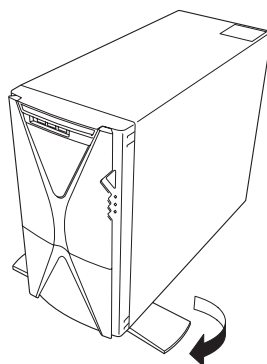


次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所に本体を設置すると、誤動作の原因となります。



本装置底面にあるスタビライザを広げて本装置を設置します。

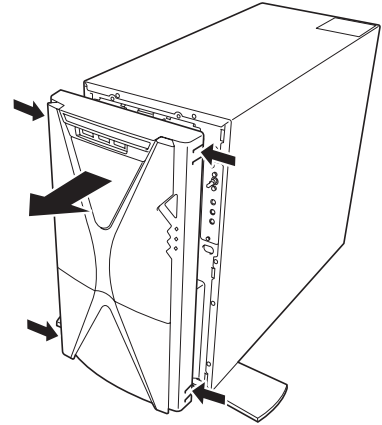
スタビライザは左右に1個ずつあります。本装置を壁側に設定する場合は、壁に向かい合う側にあるスタビライザをたたんでください。



ラックの搭載について

N8043-01 QU2Bラックマウントキットを使用してラックに搭載する場合は、フロントドアを外してください。取り外し手順は以下のとおりです。

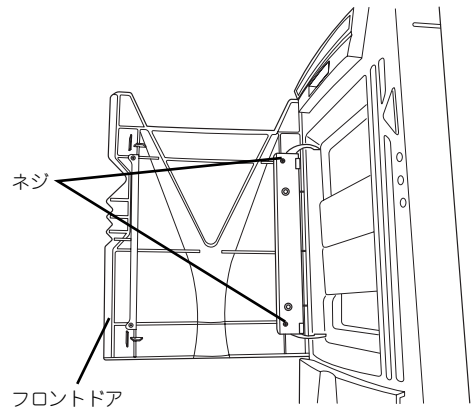
1. フロントマスクの上側にあるリリースタブ（左右各1カ所）を押しながら手前にゆっくりと引く。
フロントマスクの上側が装置から外れます。



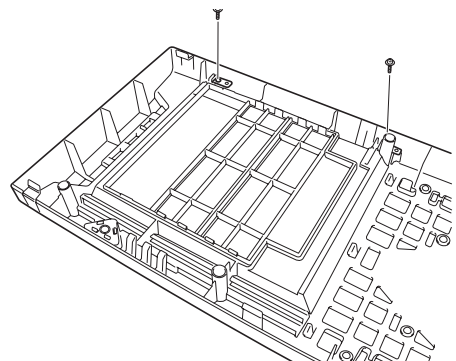
光ディスクドライブの前面を親指で軽く押しながらか手前に引くと簡単に取り外せます。

2. フロントマスクの下側にあるリリースタブ（左右各1カ所）を押しながら手前にゆっくりと引く。
フロントマスクが装置から外れます。

3. フロントドアを開き、ネジ（2カ所）を外す。
フロントドアがフロントマスクから外れます。



4. ネジ（2カ所）を外してヒンジを取り出す。
取り外したフロントドアやヒンジ、ネジは大切に保管してください。
5. フロントマスクを本体に取り付ける。



接 続

本体と周辺装置を接続します。本体の背面には、さまざまな周辺装置と接続できるコネクタが用意されています。次の図は標準の状態と接続できる周辺機器とそのコネクタの位置を示します。周辺装置を接続してから添付の電源コードを本体に接続し、電源プラグをコンセントにつなげます。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- めれた手で電源プラグを持たない

注意



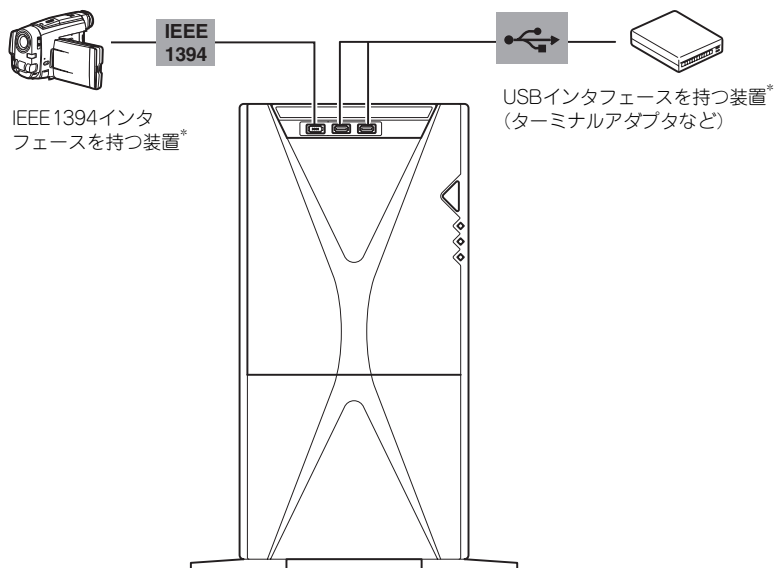
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- 電源プラグを接続したままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない



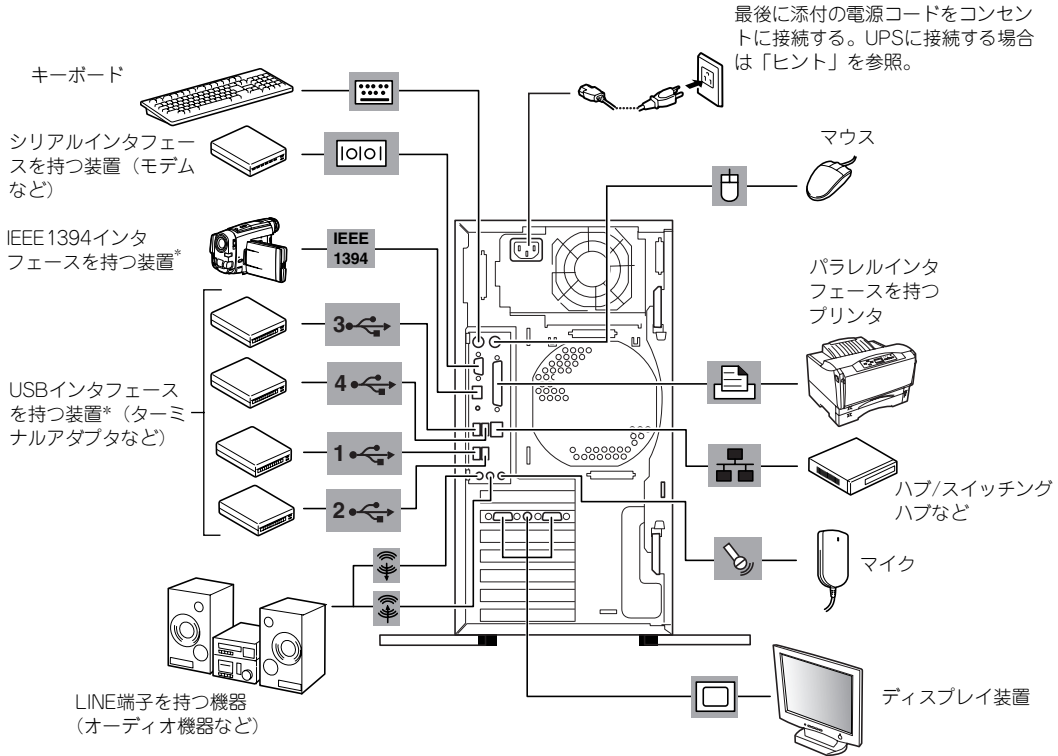
- 本装置および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- NEC以外（サードパーティ）の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあつたり、使用すると本装置の故障の原因となつたりする場合があります。
- 添付のキーボード、マウスはコネクタ部分の「△」マークを右に向けて差し込んでください。
- 本体標準のシリアルポートは専用線接続は不可です。
- 回線に接続する場合は、設定機関に申請済みのボードを使用してください。
- オプションのK410-49(01)内蔵SCSIケーブルは取り付けられている場合に、背面にある外付けのSCSIコネクタに何も接続しないときは、添付の終端コネクタを必ず取り付けてください。
- 電源コード接続時に数十秒ほど勝手に電源が入った状態になりますが故障ではありません。
- USBケーブル、LANケーブルを接続する場合は、シールド付きケーブルを使用してください。

本体前面



* 対応するドライバが必要です。

本体背面



* 対応するドライバが必要です。



ヒント

- 本装置の電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続する場合は、UPSの背面にある出力コンセントに接続します。詳しくはUPSに添付の説明書をご覧ください。
- 本装置の電源コードをUPSに接続している場合は、UPSからの電源供給と連動（リンク）させるために本装置のBIOSの設定を変更してください。BIOSの「Server」－「AC-LINK」を選択すると表示されるパラメータを切り替えることで設定することができます。詳しくは142ページを参照してください。



重要

USBケーブル、LANケーブルを接続する場合は、シールド付きケーブルを使用してください。

⚠ 注意



購入した電源コードを他の装置や用途に使用しない

購入した電源コードは本装置に接続し、使用することを目的として設計され、その安全性が確認されているものです。決して他の装置や用途に使用しないでください。火災や感電の原因となるおそれがあります。

基本的な操作

基本的な操作の方法について説明します。

電源のON

本体の電源は前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押すとONの状態になります。
次の順序で電源をONにします。



電源をOFFにした後、再度電源をONにする時には、10秒ほど経ってから電源をONにしてください。

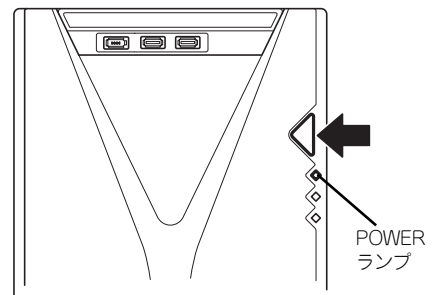
1. ディスプレイ装置および本体に接続している周辺機器の電源をONにする。



無停電電源装置（UPS）などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

2. 本体前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押す。

POWERランプが緑色に点灯し、しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NECロゴ」が表示されます。



「NEC」ロゴを表示している間、本装置は自己診断プログラム（POST）を実行して本装置自身の診断をしています。詳しくはこの後の「POSTのチェック」をご覧ください。POSTを完了するとOSが起動します。ログオン画面でユーザー名とパスワードを入力すれば使用できる状態になります。



POST中に異常が見つかったらPOSTを中断し、エラーメッセージを表示します。211ページを参照してください。

POSTのチェック

POST (Power On Self-Test) は、本体のマザーボード内に記録されている自己診断機能です。POSTは本体の電源をONにすると自動的に実行され、マザーボード、ECCメモリモジュール、CPUモジュール、キーボード、マウスなどをチェックします。また、POSTの実行中に各種のBIOSセットアップユーティリティの起動メッセージなども表示します。

出荷時の設定ではPOSTを実行している間、ディスプレイ装置には「NEC」ロゴが表示されます。(電源ONのときから<Esc>キーを押したままにすると、POSTの実行内容が表示されます。)

NEC



BIOSのメニューで<Esc>キーを押さなくても、はじめからPOSTの診断内容を表示させることができます。BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューにある「Boot-time Diagnostic Screen」の設定を「Enabled」に切り替えてください（130ページ参照）。

POSTの実行内容は常に確認する必要はありませんが、本装置の導入時や「故障かな？」と思ったとき、または電源ONからOSの起動の間に何度もピープ音がしたり、ディスプレイ装置になんらかのエラーメッセージが表示されたりしたときはPOST中に表示されるメッセージを確認してください。

POSTの流れ

次にPOSTで実行される内容を順を追って説明します。



- POSTの実行中に電源をOFFにしないでください。
- POSTの実行中は、不用意なキー入力やマウスの操作をしないようにしてください。
- システムの構成によっては、ディスプレイの画面に「Press Any Key」とキー入力を要求するメッセージを表示する場合があります。これは取り付けたオプションのボードのBIOSが要求しているためのものです。オプションの説明書にある説明を確認してから何かキーを押してください。
- オプションのPCIボードの取り付け/取り外しをしてから電源をONにすると、POSTの実行中に取り付けたボードの構成に誤りがあることを示すメッセージを表示してPOSTをいったん停止することがあります。
この場合は<F1>キーを押してPOSTを継続させてください。ボードの構成についての変更/設定は、この後に説明するユーティリティを使って設定できます。

1. 電源ON後、POSTが起動し、メモリチェックを始めます。ディスプレイ装置の画面左上に基本メモリと拡張メモリのサイズをカウントしているメッセージが表示されます。本体に搭載されているメモリの量によっては、メモリチェックが完了するまでに数分かかる場合もあります。同様に再起動（リブート）した場合など、画面に表示をするのに約1分程の時間がかかる場合があります。



- 搭載しているPCIボードなどの構成によっては、実際に搭載している物理メモリ容量より少なく表示される場合があります（BIOSセットアップユーティリティやOSのシステム情報で表示される内容も同じです）。
- Microsoft Windows XP Professionalの場合は、メモリを4GB搭載しても本装置で使用できるメモリは約3.0GBです。

2. メモリチェックを終了すると、いくつかのメッセージが表示されます。これらは搭載しているCPUや接続しているキーボード、マウスなどを検出したことを知らせるメッセージです。
3. しばらくすると、本体のマザーボードにあるBIOSセットアップユーティリティ「SETUP」の起動を促すメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP

使用する環境にあった設定に変更するときには起動してください。エラーメッセージを伴った上記のメッセージが表示された場合を除き、通常では特に起動して設定を変更する必要はありません（そのまま何も入力せずにいると数秒後にPOSTを自動的に続けます）。

SETUPを起動するときは、メッセージが表示されている間に<F2>キーを押します。設定方法やパラメータの機能については、121ページを参照してください。

SETUPを終了すると、自動的にもう一度はじめてからPOSTを実行します。

4. 続いて専用のROMを搭載したオプションのボードを搭載している場合は、それぞれのボードの設定をするためのユーティリティの起動を促すメッセージが表示されます（そのまま何も入力せずにいると数秒後にPOSTを自動的に続けます）。

複数枚のボードを取り付けている場合は、PCIボードスロット番号の小さい順から取り付けられているボードの起動メッセージが表示されます。

5. BIOSセットアップユーティリティでパスワードの設定をしていると、POSTが正常に終了した後に、パスワードを入力する画面が表示されます。

パスワードの入力は、3回まで行えます。3回とも入力を誤るとシステムを起動できなくなります。この場合は、本体の電源をOFFにしてから、約10秒ほど時間をあけてONにしてください。



OSをインストールするまではパスワードを設定しないでください。

6. POSTを終了するとOSを起動します。

POSTのエラーメッセージ

POST中にエラーを検出するとディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示します。
起動中にエラーメッセージが表示されたときは、メッセージの内容をメモした後、保守サービス会社に連絡してください。

エラーメッセージの内容や対処方法については、「運用・保守編」を参照してください。

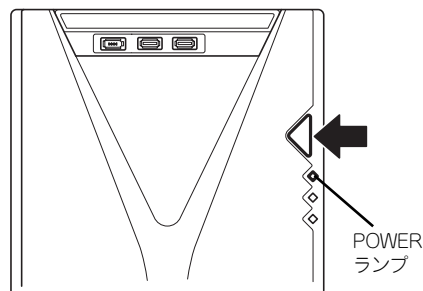


保守サービス会社に連絡するときは、ディスプレイの表示をメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。

電源のOFF

次の順序で電源をOFFにします。本体の電源コードをUPSに接続している場合は、UPSに添付の説明書を参照するか、UPSを制御しているアプリケーションの説明書を参照してください。

1. OSのシャットダウンをする。
2. 本体前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押す。
POWERランプが消灯します。
3. 周辺機器の電源をOFFにする。

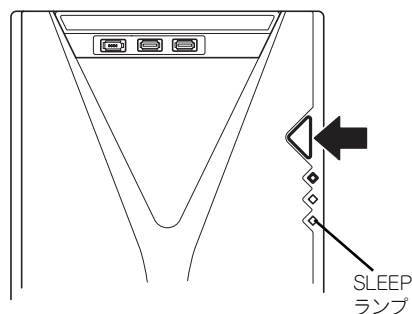


省電力モードの起動

ACPIモードに対応したOSを使用している場合、電力をほとんど使用しない状態(スタンバイ状態)にすることができます。

OSのシャットダウンメニューからスタンバイを選択するか、POWER/SLEEPスイッチの設定を電源オフからスタンバイに変更した場合はPOWER/SLEEPスイッチを押すとスタンバイ状態になります (POWER/SLEEPランプが橙色に点灯します)。

スタンバイ状態になってもメモリの内容やそれまでの作業の状態は保持されています。



POWER/SLEEPスイッチを押すと元の状態に戻ります (元の状態に戻るまでに少し時間がかかる場合があります)。



省電力モードへの移行、または省電力モードからの復帰方法については、OSの設定によって異なります。また、省電力モード中の動作レベルは、OSの設定に依存します。



BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューにある「ACPI Suspend Type」を「S3」に設定して、OS上からスタンバイ状態にする場合は、本体に搭載するメモリ容量を12GB以下にする必要があります。

フロッピーディスクドライブ

本体前面にフロッピーディスクを使ったデータの読み出し（リード）・保存（ライト）を行うことのできる3.5インチフロッピーディスクドライブが搭載されています。
FAT1.44MBと720KBフォーマットのフロッピーディスクを使用できます。



Windows XPでは、720KBのフォーマットはできません。

フロッピーディスクのセット/取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする前に本体の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認してください。

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに完全に押し込むと「カチッ」と音がして、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンが少し飛び出します。



- フォーマットされていないフロッピーディスクをセットすると、ディスクの内容を読めないことを知らせるメッセージやフォーマットを要求するメッセージが表示されます。OSに添付の説明書を参照してフロッピーディスクをフォーマットしてください。
- フロッピーディスクをセットした後に本体の電源をONにしたり、再起動するとフロッピーディスクから起動します。フロッピーディスク内にシステムがないと起動できません。

イジェクトボタンを押すとセットしたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出せます。



フロッピーディスクアクセスランプが消灯していることを確認してからフロッピーディスクを取り出してください。アクセスランプが点灯中に取り出すとデータを破損するおそれがあります。

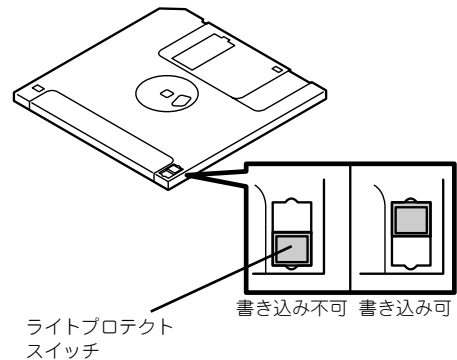
フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは、データを保存する大切なものです。またその構造は非常にデリケートにできていますので、次の点に注意して取り扱ってください。

- フロッピーディスクドライブにはていねいに奥まで挿入してください。
- ラベルは正しい位置に貼り付けてください。
- 鉛筆やボールペンで直接フロッピーディスクに書き込んだりしないでください。
- シャッターを開けないでください。
- ゴミやほこりの多いところでは使用しないでください。
- フロッピーディスクの上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。

- たばこの煙に当たるところには置かないでください。
- 水などの液体の近くや薬品の近くには置かないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- クリップなどではさんだり、落としたりしないでください。
- 磁気やほこりから保護できる専用の収納ケースに保管してください。

- フロッピーディスクは、保存している内容を誤って消すことのないようにライトプロテクト（書き込み禁止）ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、読み出しはできますが、ディスクのフォーマットやデータの書き込みができません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、書き込み時以外はライトプロテクトをしておくようお願いします。3.5インチフロッピーディスクのライトプロテクトは、ディスク裏面のライトプロテクトスイッチで行います。



- フロッピーディスクは、とてもデリケートな記憶媒体です。ほこりや温度変化によってデータが失われることがあります。また、オペレータの操作ミスや装置自身の故障などによってもデータを失う場合があります。このような場合を考えて、万一に備えて大切なデータは定期的にバックアップをとっておくことをお勧めします。（本体に添付されているフロッピーディスクは必ずバックアップをとってください。）

光ディスクドライブ

本体前面に光ディスクドライブがあります。本装置に標準で装備されている光ディスクドライブには以下のタイプがあります。

- CD-ROMドライブ
CD-ROM（読み出し専用のコンパクトディスク）のデータを読み込むための装置です。
- CD-RW/DVD-ROMドライブ
CD-R/RWドライブはCD-R/RWからデータを読み出したり、書き込むための装置ですが、本ドライブはCD-R/RWドライブにDVD-ROMのデータを読み出す機能を付加した装置です。
- DVD-ROMドライブ
CD-ROMドライブの機能に加えて、DVD-ROMのデータを読み出せる装置です。
- DVD-Multiドライブ
現在のDVD規格（DVD-ROMやDVD-RAM、DVD-RWなど）や記録形式映像用や音楽用など）に関わらずそのまま再生・記録ができる装置です。

光ディスクドライブのソフトウェア上の操作（例えばCD-Rへの書き込みなど）については本装置に添付されている別冊の説明書を参照してください。

⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 光ディスクドライブのトレイを引き出したまま放置しない
- ヘッドフォンを耳に当てたまま接続しない。

使用上の注意

本装置を使用するときに注意していただきたいことを次に示します。これらの注意を無視して装置を使用した場合、本装置または資産（データやその他の装置）が破壊されるおそれがありますので必ず守ってください。

使用するCD-R/RWディスクについて

CD-Rは、（株）太陽誘電製を推奨します。

CD-RWは、（株）リコー製または三菱化学製を推奨します。

ライティングソフトウェアをインストールする前に

- 添付のライティングソフトウェアに関するお問い合わせはライティングソフトメーカーへお願いします。お問い合わせ窓口などの詳細はライティングソフトウェア添付の説明書を参照してください。
- 1つのシステム環境下に複数のASPIマネージャが混在するとアプリケーションの動作が不安定になります。ライティングソフトウェアをインストールされる前に他のASPIマネージャがインストールされていないことを確認の上、使用してください。
- 本装置でCD-R/RWに書き込みを行う場合に、添付のライティングソフトウェアのインストールが必要となります。

ライティングソフトウェアのインストールを行う前にCD-ROMに含まれるドキュメント(doc/manual1、doc/manual2、doc/XXX) および添付の説明書を読んでください。

CD-ROMに含まれるドキュメントはpdfファイルです。Acrobat Readerをインストールしてください。

- ライティングソフトウェアにはB's CLiPが添付されていますが、添付されているバージョンのB's CLiPはExpress5800シリーズでは使用できません。

Express5800シリーズではWindows95/98/Meでの動作は保証されておりません。B's CLiPを使用しないでください。

メディアに書き込みをする前に

- 本装置を使用して、著作権者の許可なしに、音楽CDおよびアプリケーションを複製することは個人的に利用する等の場合を除き、法律により禁じられています。
- CD-Rは書き込みエラーを起こすとメディアの一部または全体が扱えなくなることがあります。書き込みエラーによるCD-Rの損失を防ぐため、以下について注意してください。
 - － アプリケーションソフトなどメモリを大量に消費するおそれのあるプログラムを終了する。
 - － スクリーンセーバを停止する。
 - － ウィルスチェッカーシステムエージェンシなどディスクチェックを行うプログラムを終了する。
 - － スケジューラや時計など書き込み中に起動するおそれのあるものは、起動しないようにする。
 - － パワーマネジメント設定における省電力設定を解除する。
 - － 書き込み中にアプリケーションを起動しない。

書き込みエラーについて

本装置を使用してメディアにデータを書き込まれる場合にCD-R/RW装置の特性上、ご使用の環境・メディア特性などにより書き込みエラーが発生する場合があります。

本製品によるデータの破損、メディアの損失につきましては弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、重要なデータについては万一に備えて他のバックアップ装置との併用をお勧めします。

OSのクリアインストールをする前に

EXPRESSBUILDERを使ってシームレスセットアップする際に、CD-ROMを交換すると正しく認識されない場合があります。

CD-ROMを交換しても正しく認識されない場合、イジェクトボタンを押して、CD-ROMをイジェクトし再度、セットし直してください。

ファームウェアのバージョンアップについて

本装置のファームウェアのバージョンアップについて弊社ホームページにてご案内する場合があります。

[NEC 8番街] : <http://nec8.com/>

弊社より案内のないファームウェアへのバージョンアップは行わないでください。その場合、該当装置は弊社の保証期間内であっても保証対象外となりますので注意してください。

音楽CDの再生について

標準装備の光ディスクドライブで音楽CDを再生する場合は次の点に注意してください。

- **Windows XPおよびWindowsXP x64 Editionの場合**

Windows Media Playerを使って再生してください。また、オプション設定でデジタル再生にチェックが入っていることを確認してください。

- **その他のOSの場合**

音楽CDの利用については保守サービス会社にお問い合わせください。

ディスクのセット/取り出し

1. 本体の電源がON（POWER/SLEEPランプ点灯）になっていることを確認する。
2. フロントドアを開く
3. 光ディスクドライブ前面のオープン/クローズボタンを押す。
トレーが出てきます。
4. ディスクの文字が印刷されている面を上に向けてトレーの上に静かに確実に置く。
5. オープン/クローズボタンを押すか、トレーの前面を軽く押す。

トレーは自動的にドライブ内にセットされます。



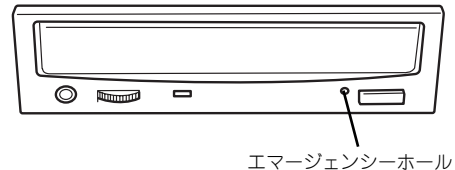
ディスクのセット後、ドライブの駆動音が大きく聞こえるときは、再度ディスクをセットし直してください。

ディスクの取り出しは、ディスクをセットするときと同じようにオープン/クローズボタンを押してトレーをイジェクトし、トレーから取り出します（アクセスランプが橙色に点灯しているときは、ディスクにアクセスしていることを示します。この間、オープン/クローズボタンは機能しません）。

OSによってはOSからトレイをイジェクトすることもできます。
ディスクを取り出したらトレイを元に戻してください。

オープン/クローズボタンを押してもディスクを取り出せない場合は、次の手順に従って取り出します。

1. POWER/SLEEPスイッチを押して本体の電源をOFF（POWERランプ消灯）にする。
2. フロントドアを開く
3. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のピン（太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる）を光ディスクドライブのフロントパネルにあるエマージェンシーホールに差し込んで、トレイが出てくるまでゆっくりと押す。



エマージェンシーホールの位置はドライブのタイプによって異なる場合があります。



- つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。
- 上記の手順を行ってもディスクが取り出せない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

4. トレーを持って引き出す。
5. ディスクを取り出す。
6. トレーを押して元に戻す。

ディスクの取り扱い

セットするディスクは次の点に注意して取り扱ってください。

- 本装置は、CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきましては、CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。
- ディスクを落とさないでください。
- ディスクの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレイにいていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接ディスクに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。

- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、ていねいにふいてください。
- 清掃の際は、CD専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。

内蔵オプションの取り付け

本体に取り付けられるオプションの取り付け方法および注意事項について記載しています。



- オプションの取り付け/取り外しはユーザー個人でも行えますが、この場合の本体および部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。本装置について詳しく、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に取り付け/取り外しを行わせるようお勧めします。
- オプションおよびケーブルは弊社が指定する部品を使用してください。指定以外の部品を取り付けた結果起きた装置の誤動作または故障・破損についての修理は有料となります。
- ハードウェア構成を変更した場合も、必ずEXPRESSBUILDERを使用してシステムをアップデートしてください（29ページを参照）。

安全上の注意

安全に正しくオプションの取り付け/取り外しをするために次の注意事項を必ず守ってください。

警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウムバッテリーを取り外さない
- 光ディスクドライブの内部をのぞかない
- 電源プラグを接続したまま取り扱わない

注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 中途半端に取り付けない
- 高温注意

静電気対策について

本体内部の部品は静電気に弱い電子部品で構成されています。取り付け・取り外しの際は静電気による製品の故障に十分注意してください。

- **リストストラップ（アームバンドや静電気防止手袋など）の着用**

リスト接地ストラップを手首に巻き付けてください。手に入らない場合は部品を触る前に筐体の塗装されていない金属表面に触れて身体に蓄積された静電気を放電します。

また、作業中は定期的に金属表面に触れて静電気を放電するようにしてください。

- **作業場所の確認**

- ー 静電気防止処理が施された床、またはコンクリートの上で作業を行います。
- ー カーペットなど静電気の発生しやすい場所で作業を行う場合は、静電気防止処理を行った上で作業を行ってください。

- **作業台の使用**

静電気防止マットの上に本体を置き、その上で作業を行ってください。

- **着衣**

- ー ウールや化学繊維でできた服を身につけて作業を行わないでください。
- ー 静電気防止靴を履いて作業を行ってください。
- ー 取り付け前に貴金属（指輪や腕輪、時計など）を外してください。

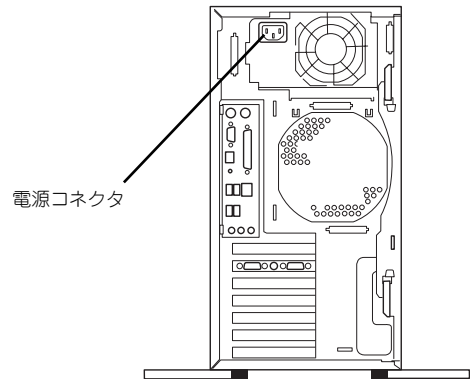
- **部品の取り扱い**

- ー 取り付ける部品は本体に組み込むまで静電気防止用の袋に入れておいてください。
- ー 各部品の縁の部分を持ち、端子や実装部品に触れないでください。
- ー 部品を保管・運搬する場合は、静電気防止用の袋などに入れてください。

取り付け/取り外しの準備

次の手順に従って部品の取り付け/取り外しの準備をします。

1. OSのシャットダウン処理を行う。
2. POWER/SLEEPスイッチを押して本体の電源をOFF（POWER/SLEEPランプ消灯）にする。
3. 本体の電源コードをコンセントおよび本体の電源コネクタから抜く。
4. 本体背面に接続しているケーブルをすべて取り外す。



取り付け/取り外しの手順

次の手順に従って部品の取り付け/取り外しをします。

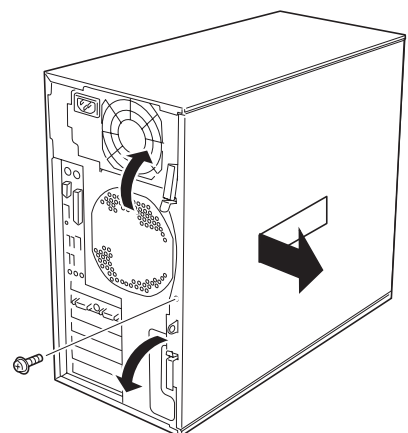
レフトサイドカバー

本体にオプションを取り付ける（または取り外す）ときはレフトサイドカバーを取り外します。

取り外し

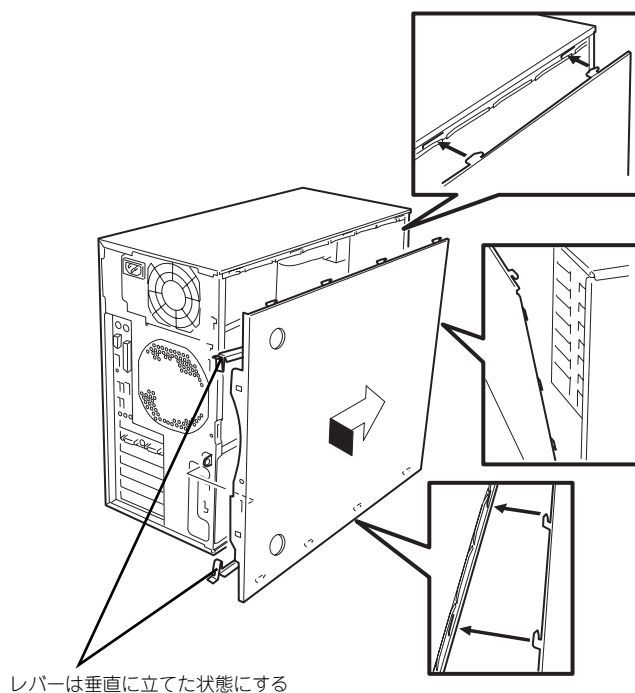
次の手順に従ってベースカバーを取り外します。

1. 「取り付け/取り外しの準備」を参照して取り外しの準備をする。
2. 背面のネジ1本を外す。
3. イジェクトレバー（2個）を広げ、レフトサイドカバーを装置後方に少し引く。
4. レフトサイドカバーをしっかりと持って取り外す。



取り付け

レフトサイドカバーは「取り外し」と逆の手順で取り付けることができます。
カバーにあるフックが本体のフレームに確実に差し込まれていることを確認してください。
イジェクトレバーが本体背面に突き当たったところでレバーを閉じてください。
最後に取り外しの際に外したネジ（1本）でレフトサイドカバーを固定します。



レバーは垂直に立てた状態にする

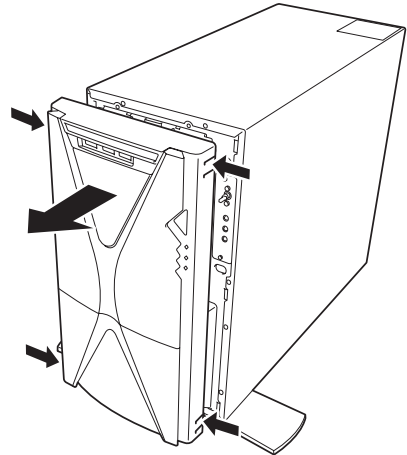
フロントマスク

5.25インチデバイスを取り付ける（または取り外す）ときはフロントマスクを取り外します。

取り外し

次の手順に従ってフロントマスクを取り外します。

1. 85ページを参照して取り外しの準備をする。
2. フロントマスクの上側にあるリリースタブ（左右各1カ所）を押しながら手前にゆっくりと引く。
フロントマスクの上側が装置から外れます。



3. フロントマスクの下側にあるリリースタブ（左右各1カ所）を押しながら手前にゆっくりと引く。
フロントマスクが装置から外れます。



前面に引っ張りすぎるとフロントマスクの右側を固定しているフックを破損してしまいます。少しだけ引き出してください。

取り付け

フロントマスクは「取り外し」の逆の手順で取り付けることができます。フロントマスク裏側にある複数の位置決めピンやフックが本装置前面のそれぞれの穴に入るよう位置を合わせてから本装置に軽く押しつけると「パチン」と音がして本装置に取り付けられます。



フロントマスクの取り付けの前にあるランプブラケット（ランプ類が組み込まれているプラスチック製のブラケット）が本体前面のフレームに確実に取り付けられていることを確認してください。

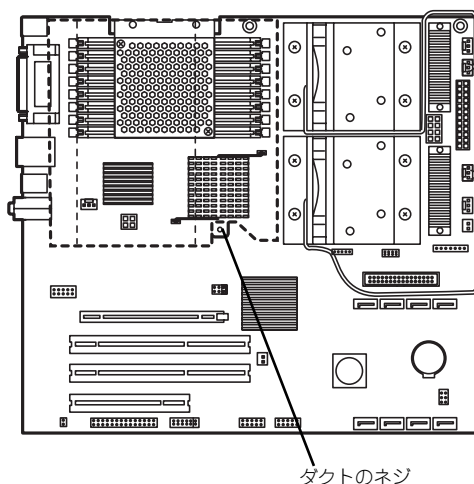
ダクト

本体にオプションCPU、オプションメモリを取り付ける（または取り外す）ときはダクトを取り外します。

取り外し

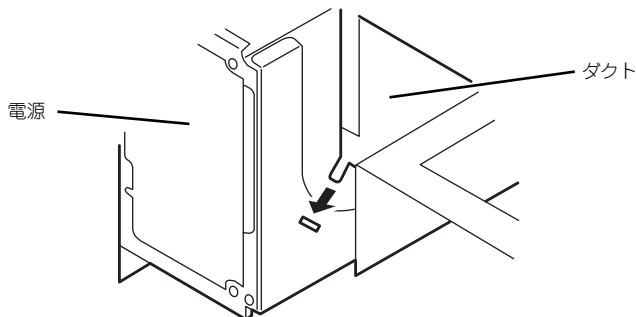
次の手順に従ってダクトを取り外します。

1. 85ページを参照して取り外しの準備をする。
2. 85ページを参照してレフトサイドカバーを取り外す。
3. 左側面が上になるように本装置をしっかりと両手で持ち、ゆっくりと静かに倒す。
4. ネジ1本を外してダクトを取り外す。



取り付け

ダクトは「取り外し」と逆の手順で取り付けることができます。
ダクトにあるフックを電源横に引っかけてからネジ止めして固定して下さい。



3.5インチハードディスクドライブ

標準装備のハードウェア構成において本体の内部には、ハードディスクドライブをSATAモデルで最大3台、SASモデルで最大3台取り付けることができます。



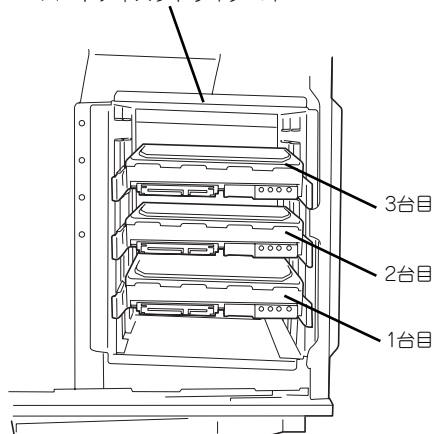
- 弊社で指定していないハードディスクドライブを使用しないでください。サードパーティのハードディスクドライブを取り付けるとハードディスクドライブだけでなく本体が故障するおそれがあります。また、これらの製品が原因となった故障や破損についての修理は保証期間中でも有料となります。
- SATAディスクを3台実装した場合は、BIOS上のディスク順序とOS上のディスク順序の表示が異なりますので注意願います。
BIOS上の2台目と3台目が、OS上では逆に表示されます。

BIOS上での表示	OS上での表示
1台目	ディスク0
2台目	ディスク2
3台目	ディスク1



SATAハードディスクドライブの増設には別売のK410-145(00)ケーブルが、SASハードディスクドライブの増設には別売のK410-143(00)ケーブルが必要です。

ハードディスクドライブベイ



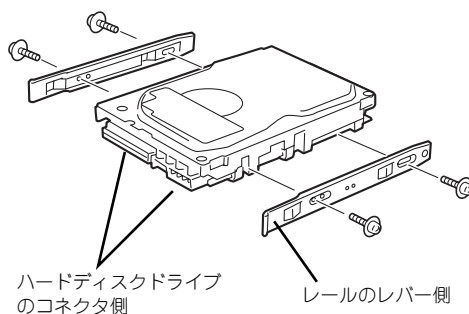
取り付け

次の手順に従って3.5インチハードディスクドライブを取り付けます。



装置を横に倒した状態にしてハードディスクドライブの取り付け/取り外しをしないでください。ハードディスクドライブを装置内部に落としてハードディスクドライブや装置本体を破損させてしまうおそれがあります。

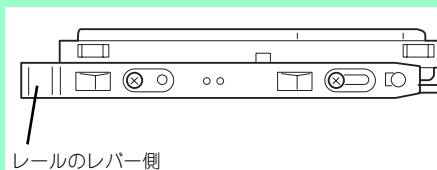
1. 85ページを参照して取り外しの準備をする。
2. 85ページを参照してレフトサイドカバーを取り外す。
3. 本装置に添付のレールをハードディスクドライブに取り付ける。



ハードディスクドライブを固定するネジは、ハードディスクドライブ添付のネジを使用してください。必要以上に長さのあるネジを使用するとハードディスクドライブを破損するおそれがあります。

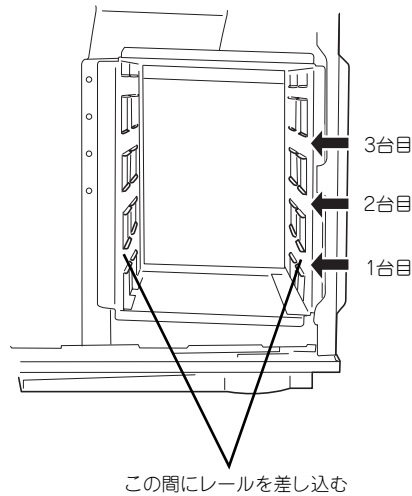


レールの先端にあるレバー部分がハードディスクドライブより飛び出すように取り付けてください。



4. ハードディスクドライブを取り付けるスロットを確認する。

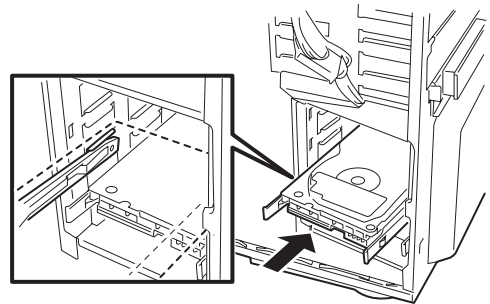
ハードディスクドライブベイには4つの取り付けスロットがありますが、一番上のスロットは使用しません。下のスロットから順にハードディスクドライブを取り付けてください。



5. ハードディスクドライブのコネクタ側を手前に、基板面を下に向けて持ち、スロットへゆっくりとていねいに差し込む。

ハードディスクドライブに取り付けた左右のレールがハードディスクドライブベイにあるスロットに確実に差し込まれていることを確認してください。

奥まで差し込むと「カチッ」と音がしてロックされます。



6. ケーブルを接続する。

<SATAハードディスクドライブ>

インタフェースケーブルは、マザーボードとハードディスクドライブに以下のように接続してください。

マザーボード	ハードディスクドライブ
SATA1	1台目
SATA2	2台目
SATA3	3台目

電源ケーブルは、電源とハードディスクドライブに以下のように接続してください。

電源	ハードディスクドライブ
P12	1台目
P11	2台目
P14	3台目

<SASハードディスクドライブ>

インタフェースケーブルは、マザーボードとハードディスクドライブに以下のように接続してください。

マザーボード	ハードディスクドライブ
SAS1	1台目
SAS2	2台目
SAS3	3台目

電源ケーブルは、インタフェースケーブルに分岐しているコネクタに電源からのケーブルを以下のように接続してください。

電源	ハードディスクドライブ
P8	1台目
P7	2台目
P10	3台目

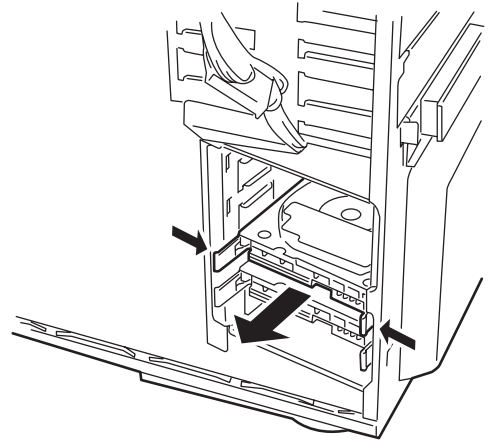
7. 本装置を組み立てる。

取り外し

ハードディスクドライブは次の手順で取り外すことができます。

1. 85ページを参照して取り外しの準備をする。
2. 85ページを参照してレフトサイドカバーを取り外す。
3. 取り外すハードディスクドライブに接続しているケーブルをすべて取り外す。
4. ハードディスクドライブの両側にあるレバーを押さえながら手前に引き出してハードディスクドライブベイから取り外す。
5. 本装置を組み立てる。
6. ハードディスクドライブからレールを取り外す。

レールは大切に保管してください。

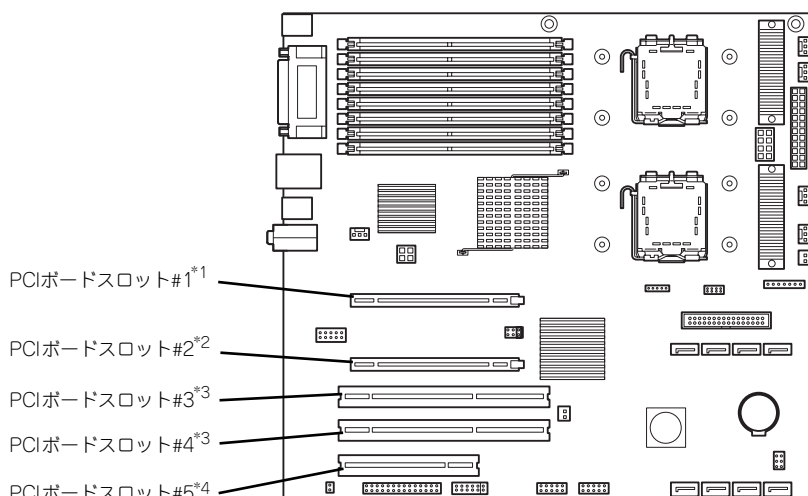


PCIボード

本装置には、PCIボードを取り付けることのできるスロットを5つ用意しています。



- PCIボードは静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、ボードの端子部分を素手で触ったり、ボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に対する注意については、84ページで説明しています。
- ロングボードを実装する際には、マザーボード上の部品に接触しないよう、注意して実装してください。
- PCIバスの仕様がスロットによって異なります。規格にあったボードを接続してください。



- *1 PCI EXPRESSインタフェース
(グラフィックスアクセラレータ用)
- *2 PCI EXPRESSインタフェース
- *3 PCI-X 64bit/133MHz/3.3Vインタフェース
- *4 PCI 32bit/33MHz/5Vインタフェース

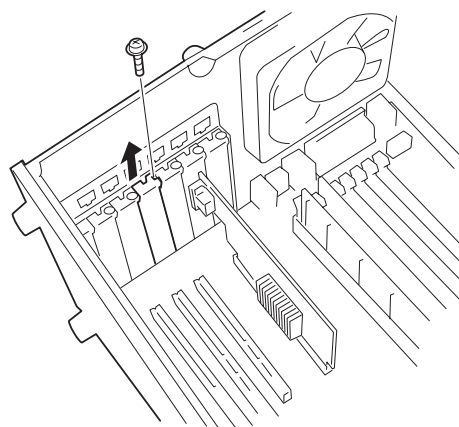
取り付け

次の手順に従ってPCIボードスロットに接続するボードの取り付けを行います。詳細については、ボードに添付の説明書を参照してください。

1. 取り付け前に、取り付けるボードでスイッチやジャンパの設定が行える場合は、ボードに添付の説明書を参照して正しく取り付ける。
2. 85ページを参照して取り外しの準備をする。
3. 85ページを参照してレフトサイドカバーを取り外す。
4. 左側が上になるように本装置をしっかりと両手で持ち、ゆっくりと静かに倒す。

5. 取り付けるスロットと同じ位置（高さ）にある増設スロットカバーを固定しているネジ1本を外し、カバーを取り外す。

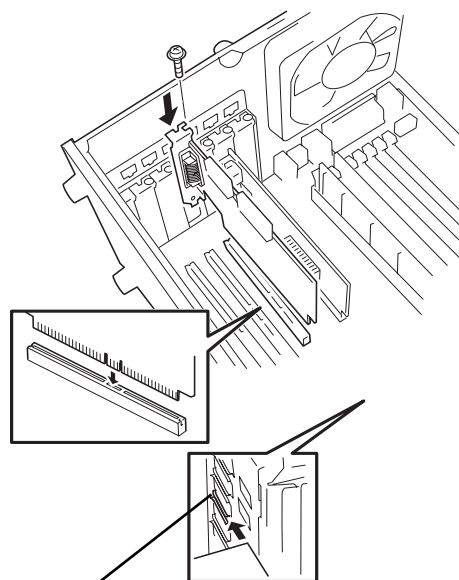
PCI バス 2 スロット分のグラフィックスアクセラレータを取り付ける場合は、PCI#1とPCI#2のPCIダミーパネルを固定している2本のネジとPCIガイドレールに取り付けられているネジ1本を外します。



取り外したスロットカバーは大切に保管してください。

6. ボードの部品面を本体底面に向け、ボードの接続部分がスロットに確実に接続するようにしっかりとボードを押し込む。

ロングボードの場合は、本体前面側にあるガイドレールの溝にボードを合わせてからスロットに接続します。



ロングボードの場合は、装置内部にあるガイドレールにボードの端を通す



うまくボードを取り付けられないときは、ボードをいったん取り外してから取り付け直してください。ボードに過度の力を加えるとボードを破損するおそれがありますので注意してください。

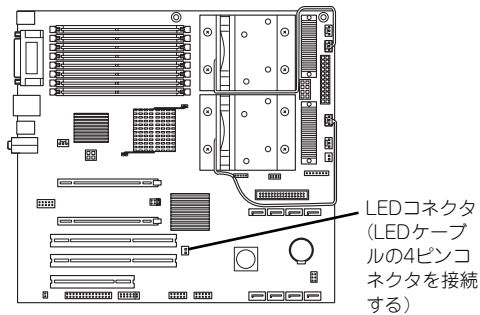


内蔵ケーブルがボードに引っかかっていないことを確認してください。

7. 手順5.で取り外したネジでボードを固定する。

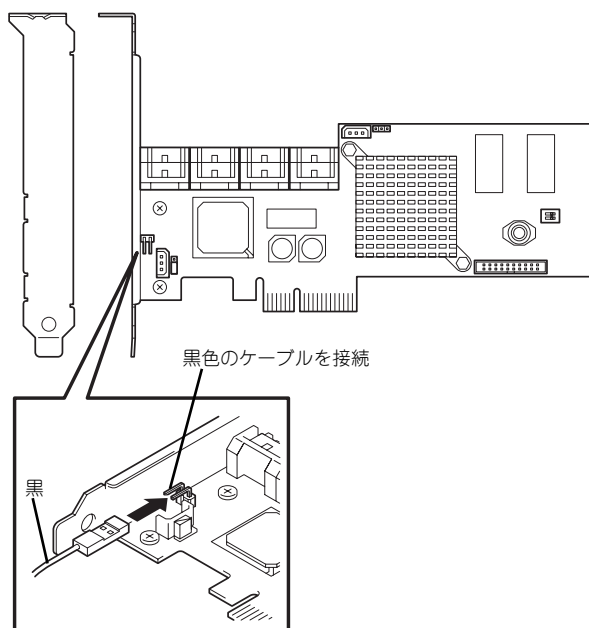
8. <RAIDコントローラを取り付けた場合>

別売のLEDケーブルをコントローラとマザーボード上のLEDコネクタに接続するとハードディスクドライブのアクセス状態が本体前面のディスクアクセスランプに表示させることができます。

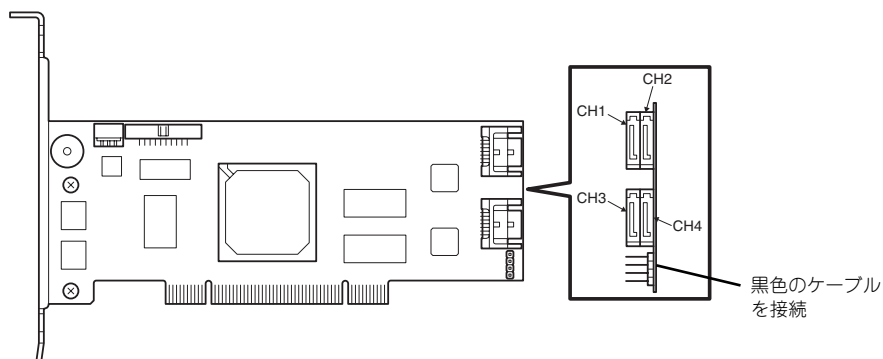


コントローラ側のコネクタ位置については、ディスクアレイコントローラに添付の説明書を参照してください。

— N8103-101



— N8103-89



9. 本装置を組み立てる。
10. 本装置の電源をONにしてPOSTでエラーメッセージが表示されていないことを確認する。
エラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモした後、211ページのエラーメッセージ一覧を参照してください。
11. BIOSセットアップユーティリティを起動して「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。
ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは130ページをご覧ください。

取り付け後の設定

取り付けたボードのタイプによっては、取り付け後にユーティリティ（本装置のBIOSセットアップユーティリティやボードに搭載・添付されているセットアップユーティリティ）を使って本装置の設定を変更しなければならない場合があります。

ボードに添付のマニュアルに記載されている内容に従って正しく設定してください。

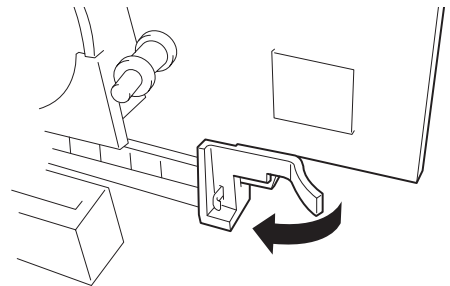
なお、本装置では電源ON後にPCIバス番号の小さい順にスキャンをします。ボードに搭載されたオプションROM内にBIOSユーティリティが格納されている場合は、PCI EXPRESSインタフェース、そしてPCIバス番号の小さい順にその起動メッセージ（バナー）を表示します。

取り外し

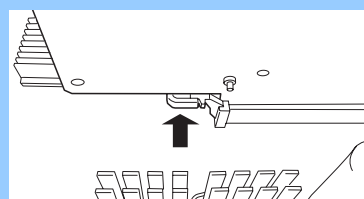
次の手順に従ってPCIボードスロットに接続されているボードの取り外しを行います。

1. 85ページを参照して取り外しの準備をする。
2. 85ページを参照してレフトサイドカバーを取り外す。
3. 本装置をしっかりと両手で持ち、ゆっくりと静かに倒す。
4. ネジ1本を外してボードを取り外す。

PCI Express インタフェースのスロットに取り付けたボードはロックされていますので、取り外す場合はスロットにあるイジェクトレバーを引きながら取り外してください。



PCIバス2スロット幅分のグラフィックスアクセラレータを取り付けている場合は、PCI Expressのロックを反対側から押しながら、ボードを取り外して下さい。



5. 増設スロットカバーを取り付け、手順4.で外したネジで固定する。
6. 手順1.・2.で取り外した部品を取り付け、本装置を組み立てる。
7. 本装置の電源をONにしてPOSTでエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

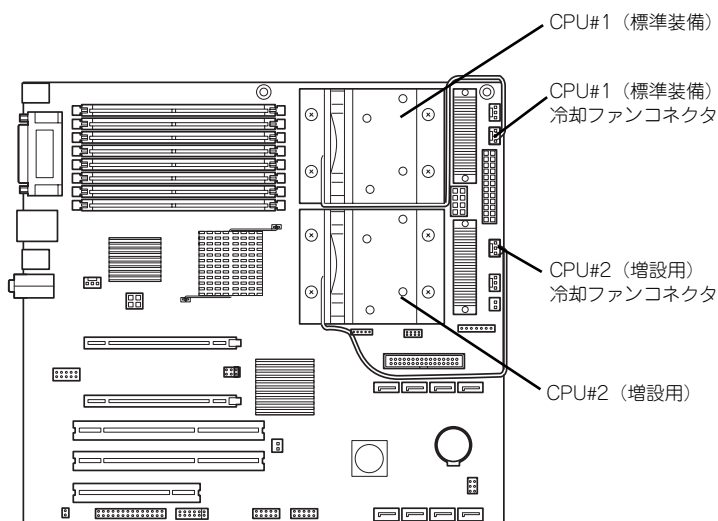
エラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモした後、211ページのエラーメッセージ一覧を参照してください。

8. BIOSセットアップユーティリティを起動して「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは130ページをご覧ください。

プロセッサ (CPU)

標準装備のCPU(Intel® Xeon™ Processor)に加えて、もう1つCPUを増設することができます。



取り付け

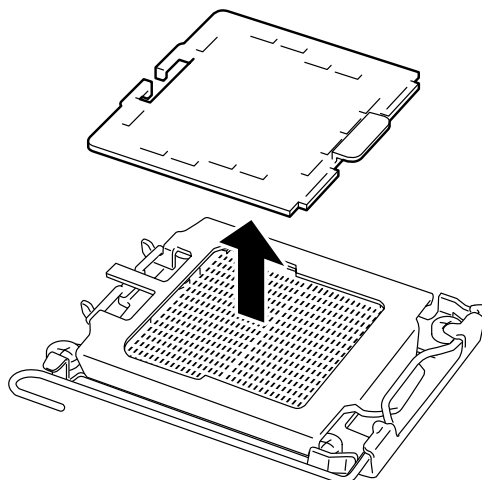
次の手順に従ってCPUを取り付けます。



CPUは大変静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからCPUを取り扱ってください。また、CPUのピンを素手で触ったり、CPUを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は84ページで詳しく説明しています。

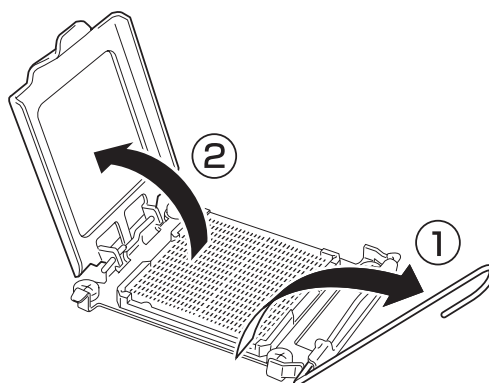
1. 85ページを参照して取り外しの準備をする。
2. 85ページを参照してレフトサイドカバーを取り外す。

3. 左側面が上になるように本装置をしっかりと両手で持ち、ゆっくりと静かに倒す。
4. 88ページを参照してダクトを取り外す。
5. CPUソケットの保護カバーを外す。

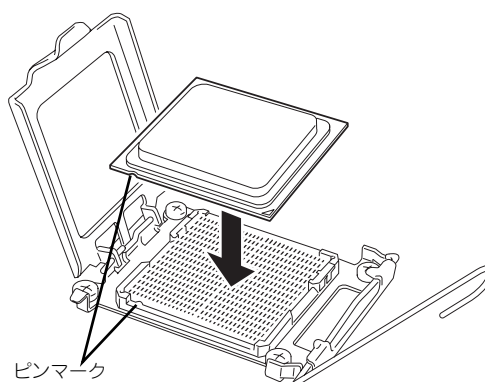


取り外したCPUソケットの保護カバーは大切に保管してください。

6. ① ソケットのレバーを反対側に倒す。
- ② CPUソケットのカバーを持ち上げる。

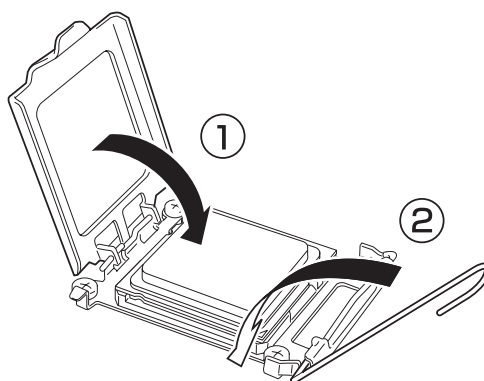


7. CPUをソケットの上にていねいにゆっくりと置く。

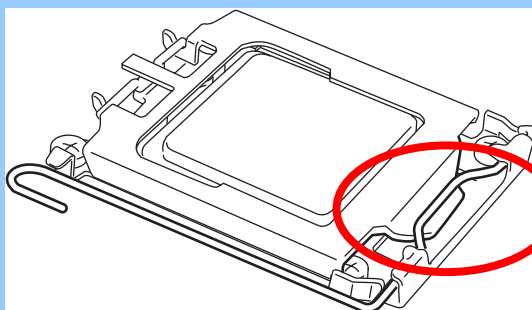


CPUの向きに注意してください。CPUとソケットは誤挿入を防止するためにCPUとソケットにはピンマークがあります。CPUとソケット側のピンマークを確認して正しく取り付けてください。

8. ① CPUソケットのカバーを閉じる。
② レバーをもとの位置に戻す。

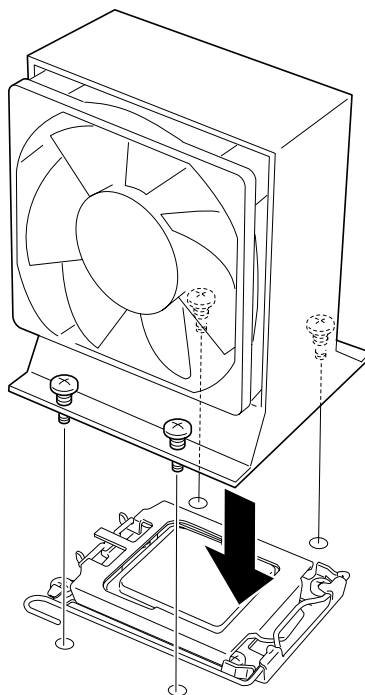


CPUソケットのカバー先端がレバーでおさえられていることを確認してください。



9. ヒートシンクをCPUの上に置く。

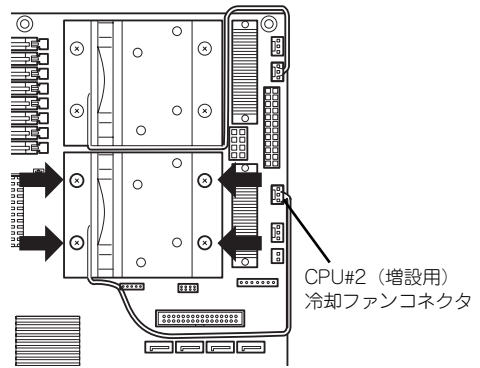
ヒートシンク底面にあるネジ（4本）をマザーボード上のネジ穴に合わせて置いてください。



ヒートシンクの向きに注意してください。98ページの図と同じ向きにしてCPUの上に置きます。

10. ネジ4本を締めてマザーボードに固定する。

たすき掛けの順番でネジを均等に締めていってください。1本のネジだけを完全に締めてから別のネジを締めるとヒートシンクが傾いた状態で固定され、正しく冷却できなくなることがあります。



11. ヒートシンクがプロセッサと水平に取り付けられていることを確認する。



- 斜めに傾いているときは、いったんヒートシンクを取り外してから、もう一度取り付け直してください。
水平に取り付けられない原因には次のことが考えられます。
 - － CPUが正しく取り付けられていない。
 - － ヒートシンククリップを正しく引っかけていない。
- 固定されたヒートシンクを持って動かさないでください。

12. ヒートシンクのファンケーブルコネクタをマザーボード上の冷却ファンコネクタに接続する。



ヒートシンクのファンケーブルがヒートシンクのファンに絡まないよう、ケーブルのルーティングは注意してください（手順9.の図を参照）。

13. 手順1.～4.で取り外した部品を取り付け、本装置を組み立てる。

14. 本装置の電源をONにしてPOSTでエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

エラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモした後、211ページのエラーメッセージ一覧を参照してください。

15. 「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは130ページをご覧ください。

16. デバイスマネージャの「コンピュータ」のドライバを「ACPIマルチプロセッサPC」に変更後、再起動してからシステムのアップデート（29ページ）を行う。

取り外し

「取り付け」の手順2.に示す部品を取り外し、左側面が上になるように本装置を静かに倒した後、手順11.～5.の逆の手順を行ってください。



- CPUの故障以外で取り外さないでください。
- 取り付け後は次の作業を行ってください。
 - － 本装置の電源をONにして、POSTでエラーメッセージが表示されていないことを確認する。
 - － 「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする（130ページ参照）。

また、取り外し後はEXPRESSBUILDERを使用したシステムのアップデートを実行してください（29ページ参照）。

DIMM

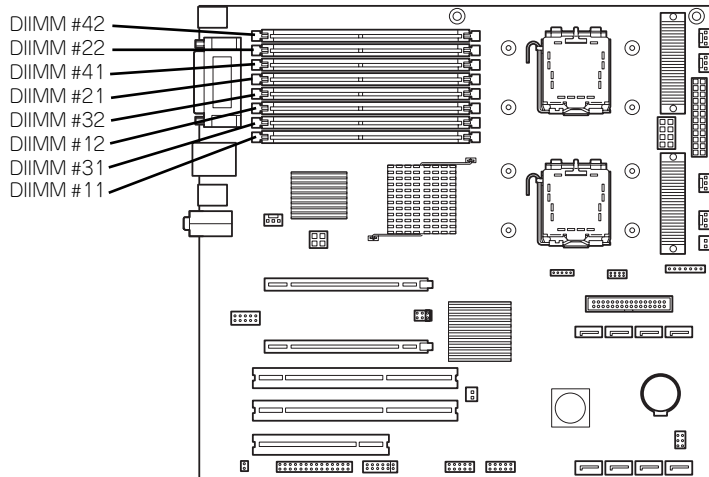
DIMM (Dual In-line Memory Module) は、マザーボード上のDIMMコネクタに取り付けます。マザーボード上にはDIMMを取り付けるコネクタが8個あります(増設や取り外しは2枚単位です)。



- 本装置のメモリ動作はDual Channelモードとなっておりますが、DIMMを4枚以上実装することによりQuad Channelモードに自動的に変更になります。
使用するツールにもよりますが、Quad Channelモードでは、Dual Channelモードよりもメモリ性能が上がります。
- 弊社で指定していないDIMMを使用しないでください。サードパーティのDIMMなどを取り付けると、DIMMだけでなく、本体が故障するおそれがあります（これらの製品が原因となった故障や破損についての修理は保証期間中でも有料となります）。
- DIMMは静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、ボードの端子部分を素手で触ったり、ボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に対する注意については、84ページで説明しています。
- ペア単位で2枚のDIMMを増設してください。ペア内に異なった仕様のDIMMを取り付けると正しく動作しません。
- 搭載しているPCIボードなどの構成によっては、実際に搭載している物理メモリ容量より少なく表示される場合があります（POSTのメモリカウントやBIOSセットアップユーティリティ、OSのシステム情報で表示される内容も同じです）。
- Microsoft Windows XP Professionalの場合は、4メモリを4GB搭載しても本装置で利用できるメモリは約3.0GBです。
- Windows XP x64 Editionにてメモリを4GB以上実装した場合は、休止状態は使用できません。
- メモリミラーリング機能を使用する場合は、同じ仕様のDIMMを4枚単位で実装してください。
- BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューにある「ACPI Suspend Type」を「S3」に設定して、OS上からスタンバイ状態にする場合は、本体に搭載するメモリ容量を12GB以下にする必要があります。



POSTやESMPROのエラーメッセージやエラーログではDIMMコネクタのことを「グループ」と表示する場合があります。グループの後に示される番号は下図のコネクタ番号と一致しています。



増設順序と注意事項

- DIMMは2枚単位でペア番号の小さい順に取り付けます。
 - ー ペア1: DIMM #11とDIMM #12
 - ー ペア2: DIMM #21とDIMM #22
 - ー ペア3: DIMM #31とDIMM #32
 - ー ペア4: DIMM #41とDIMM #42
- ペアを構成する2枚のDIMMは同じ性能・仕様・容量にしてください。ペア間で容量が異なるDIMMを取り付けることは問題になりません。
- メモリミラーリング構成をする場合は、同じ仕様のDIMMを以下に実装してください。
 - ー ペア1: DIMM #11とDIMM #12とDIMM #21とDIMM #22
 - ー ペア2: DIMM #31とDIMM #32とDIMM #41とDIMM #42



- メモリミラーリング機能を使用する場合は、使用できるメモリ容量は搭載メモリの半分になります。
- メモリミラーリングをする場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューにある「Memory Configuration」にてメモリミラー設定にしてください。



メモリモードをQuad Channelモードで使用したい場合は、DIMMを4枚以上実装して下さい。

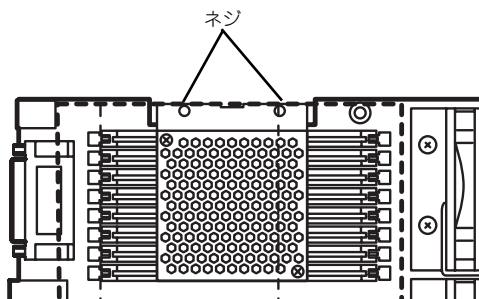
- ー ペア1とペア2に実装
- ー ペア1～4に実装

なお、ペアを構成する2枚のDIMMは同じ仕様・容量にする必要がありますが、別のペアとの仕様・容量を合わせる必要はありません。

取り付け

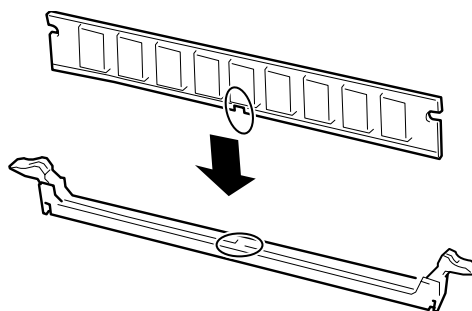
次の手順に従ってDIMMを取り付けます。

1. 85ページを参照して取り付けの準備をする。
2. 85ページを参照してレフトサイドカバーを取り外す。
3. 左側面が上になるように本体をしっかりと両手で持ち、ゆっくりと静かに倒す。
4. 88ページを参照してダクトを取り外す。
5. ネジ2本を外して、メモリ用ファンを取り外す。



6. DIMMを取り付けるコネクタにある左右のレバーを開く。
7. DIMMを垂直に立てて、コネクタにしっかりと押し込む。

DIMMがDIMMコネクタに差し込まれるとレバーが自動的に閉じます。

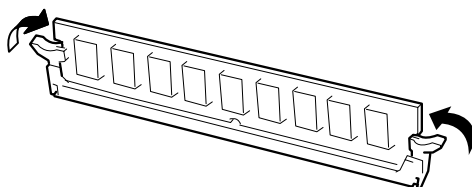


無理な力を加えるとDIMMやコネクタを破損するおそれがあります。まっすぐ、ていねいに差し込んでください。



DIMMの向きに注意してください。DIMMの端子側には誤挿入を防止するためのキーとキースロットがあります。

8. レバーを確実に閉じる。
9. ペアを構成するもう一方のDIMMコネクタに手順4.～7.と同じ手順でDIMMを取り付ける。



10. 本体を組み立てる。

11. 本体の電源をONにしてPOSTの画面でエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

エラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモした後、211ページのエラーメッセージ一覧を参照してください。

12. 「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは130ページをご覧ください。

13. Windows XPでページングファイルサイズの設定を変更する（31、42ページ参照）。

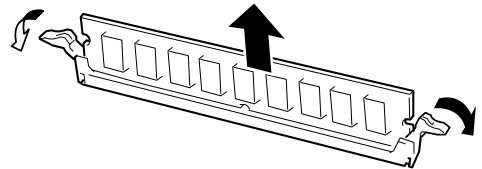
取り外し

次の手順に従ってDIMMを取り外します。

1. 「取り付け」の手順1.～5.を参照して取り外しの準備をする。

2. 取り外すDIMMのコネクタの両側にあるレバーを左右にひろげる。

DIMMのロックが解除されます。



3. DIMMを取り外す。

取り外したDIMMは静電気防止用の袋に入れて適切な環境で大切に保管してください。

4. ペアを構成するもう一方のDIMMコネクタからDIMMを取り外す。

5. 本体を組み立てる。

6. 本体の電源をONにしてPOSTの画面でエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

エラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモした後、211ページのエラーメッセージ一覧を参照してください。

7. 「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは130ページをご覧ください。

8. Windows XPでページングファイルサイズの設定を変更する（31、42ページ参照）。

5.25インチデバイス

本装置には、光ディスクドライブや磁気テープドライブなどのバックアップデバイスを取り付けるスロットを2つ用意しています（2つのスロットのうち、標準装備の光ディスクドライブで1スロット使用しています）。



- SCSIデバイスを搭載する場合は、SCSIコントローラボードと内蔵SCSIケーブルが必要になります。
 - オプションの内蔵SCSIケーブルによっては、Narrow SCSIデバイスに接続するためのNarrow SCSIコネクタが取り付けられている場合があります。詳しくは「ケーブル接続」を参照してください。
- ー 標準装備の光ディスクドライブ: MASTER
 - ー DVD-RAM/RAMドライブ: SLAVE

取り付け

次の手順に従って5.25インチデバイスを取り付けます。

1. デバイスの設定をする。

デバイスベイに取り付けるデバイスの設定は以下のとおりです。

デバイス	中段
SCSI デバイス	ID0、終端抵抗 OFF*
IDE デバイス	SLAVE

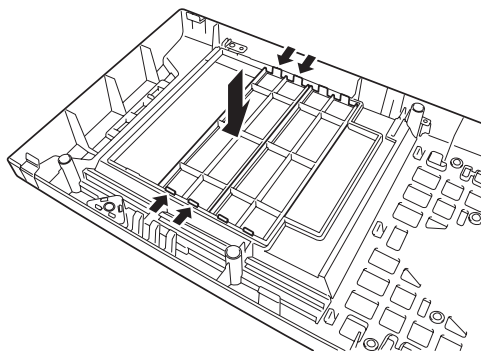
* オプションの内蔵SCSIケーブルに終端が取り付けられていない場合は終端抵抗ONに設定してください。

2. 85ページを参照して取り付けの準備をする。

3. 次の部品を取り外す。

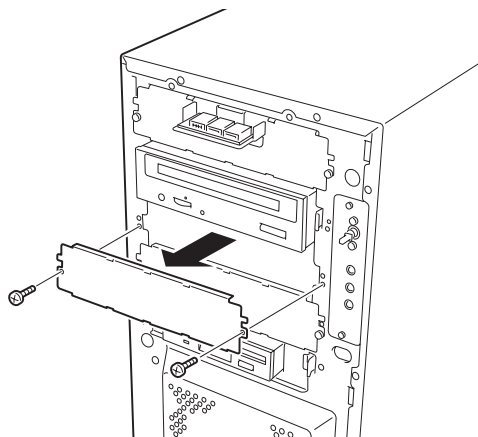
- ー レフトサイドカバー（85ページ参照）
- ー フロントマスク（87ページ参照）

4. フロントマスクから増設するスロットの位置にあるダミーカバーを取り外す。



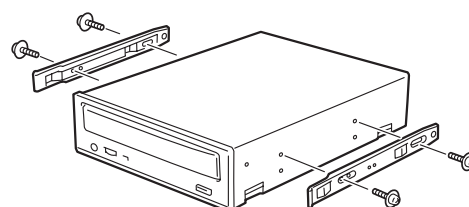
取り外したダミーカバーは大切に保管してください。

5. 5.25インチデバイスを取り付ける
 スロットにあるデバイスベイカ
 バーをネジ2本を外して取り外
 す。

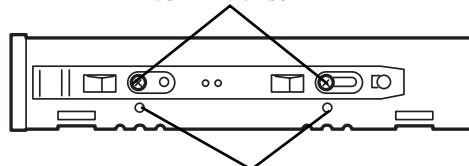


取り外したデバイスベイカバーは大切に保管してください。

6. 本装置に添付のレールを5.25イ
 ンチデバイスに取り付ける。



上側のネジ穴を使う



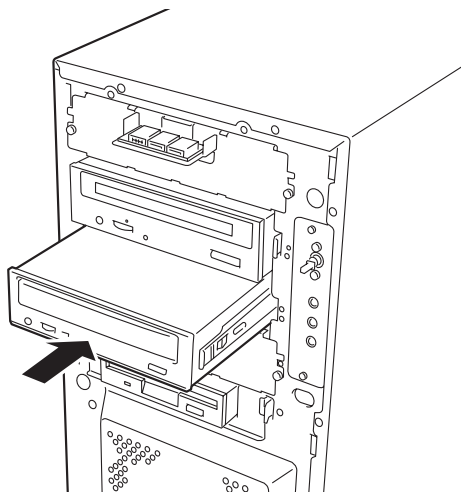
下側は使用しない



- 固定に使うネジはオプションのデバイスに添付のネジを使用してください。必要以上に長さのあるネジを使用するとデバイスを破損するおそれがあります。
- デバイスにレールの固定穴が上下2列に並んでいる場合は、上側の列でレールを固定してください。下側でレールを固定するとデバイスベイに正しく取り付けることができません。

7. 5.25インチデバイスをデバイスベイに入れる。

「カチッ」と音がしてロックされるまで押し込んでください。



8. 装置側面から取り付けた5.25インチデバイスにインタフェースケーブルと電源ケーブルを接続する。

詳しくは、この後の「ケーブル接続」を参照してください。

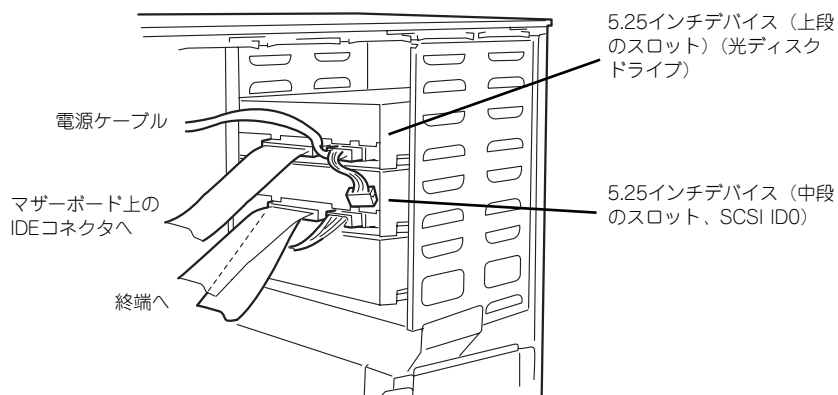
電源ケーブルは、電源ユニットから出ているケーブルを使用します。「P4」と印刷されているケーブルのコネクタを中段のベイに取り付けたデバイス（SCSI ID0、またはSLAVE）に接続します。

SCSIケーブルはSCSIコントローラに接続してください。

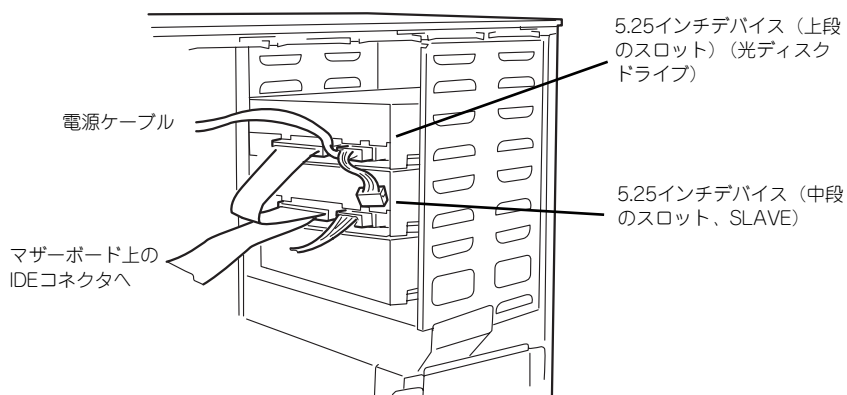
IDEケーブルはマザーボードのIDEコネクタに接続しているケーブルを接続してください。

オプションの内蔵SCSIケーブルのコネクタには、Narrow SCSIに変換するコネクタが取り付けられているものもあります。取り付けたデバイスが、Ultra Wide SCSIの場合は、コネクタを取り外してからデバイスに接続してください（取り外したコネクタは大切に保管してください）。

<SCSIデバイスを取り付けた場合>



<IDEデバイスを取り付けた場合>

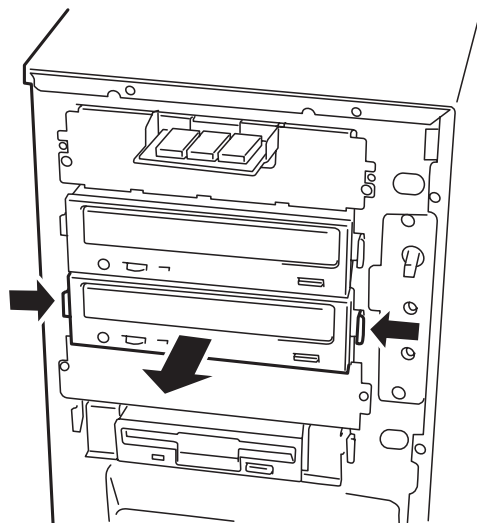


- SCSIケーブルがCPUのファンに絡まないよう気をつけてください。
- ケーブルの断線を防ぐために、ケーブルをきつく束ねないでください。
- SCSIケーブルと電源ケーブルを一緒に束ねないでください。

9. 手順3.・2.の逆の手順で本装置を組み立てる。

取り外し

5.25インチデバイスは「取り付け」の逆の手順で取り外すことができます。デバイスを本体から取り出すときは、デバイスの左右にあるレバーを押しながら手前に引き出してください。



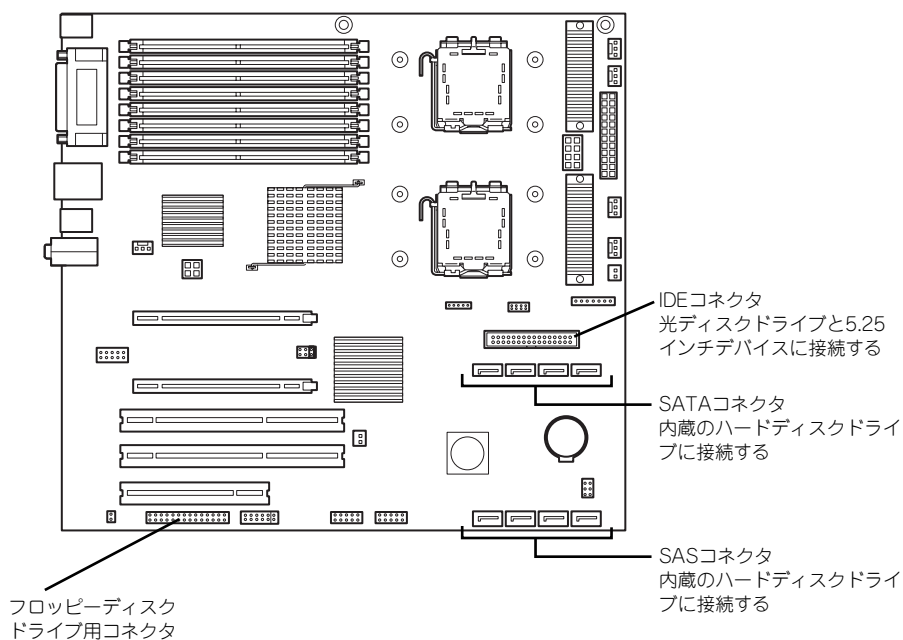
ケーブル接続

本体内部のデバイスのケーブル接続例を示します。

インタフェースケーブル

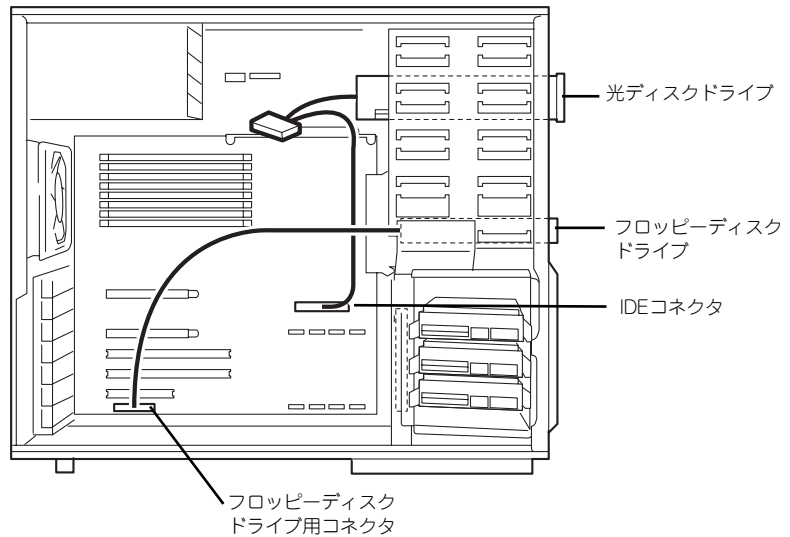
本装置のマザーボード上には、ディスクドライブとファイルデバイスを接続するための以下のインタフェースコネクタがあります。

- SASコネクタ（内蔵ハードディスク用）
- SATAコネクタ（内蔵ハードディスク用）
- IDEコネクタ（光ディスク用、オプションデバイス用）
- フロッピーディスクドライブコネクタ



フロッピーディスクドライブ・光ディスクドライブ

標準装備のフロッピーディスクドライブと光ディスクドライブは以下のように接続されています。

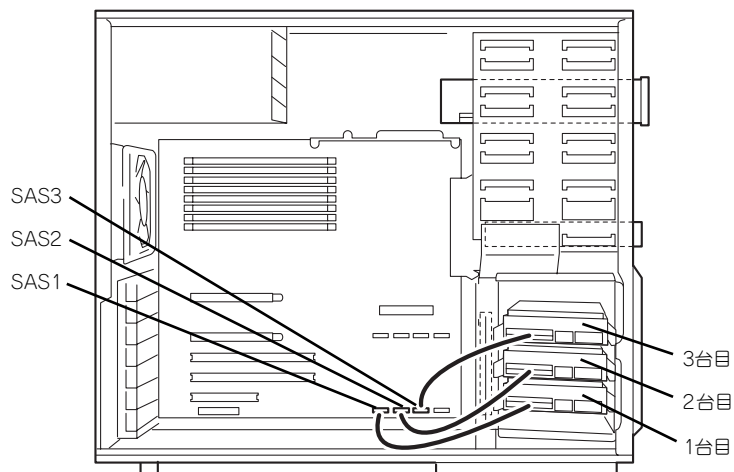


ハードディスクドライブ(SASハードディスクモデル)

内蔵のハードディスクドライブはマザーボード上のSASコネクタに接続されます。ハードディスクドライブは最大3台まで搭載できます。取り付け順序はベイの下段→中段→上段の順です。



ハードディスクドライブの増設には別売のK410-143(00)ケーブルが必要です。

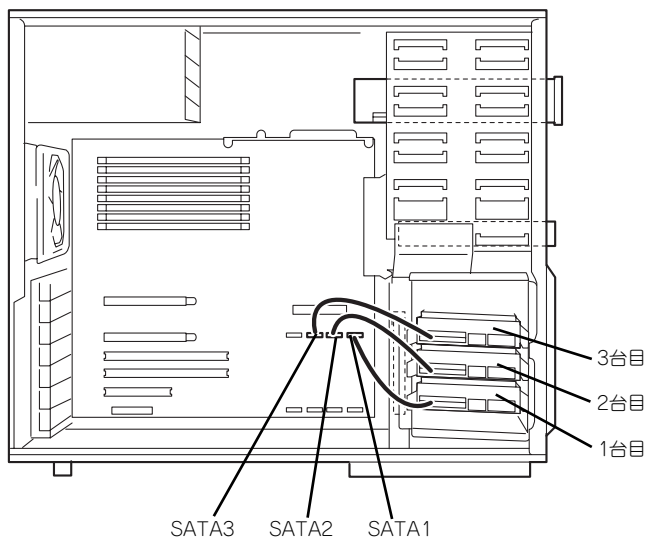


ハードディスクドライブ (SATAハードディスクモデル)

内蔵のハードディスクドライブはマザーボード上のSATAコネクタに接続されます。ハードディスクドライブは最大3台まで搭載できます。取り付け順序はベイの下段→中段→上段の順です。



ハードディスクドライブの増設には別売のK410-145(00)ケーブルが必要です。



本体標準のディスクアレイを使用する場合（SAS）

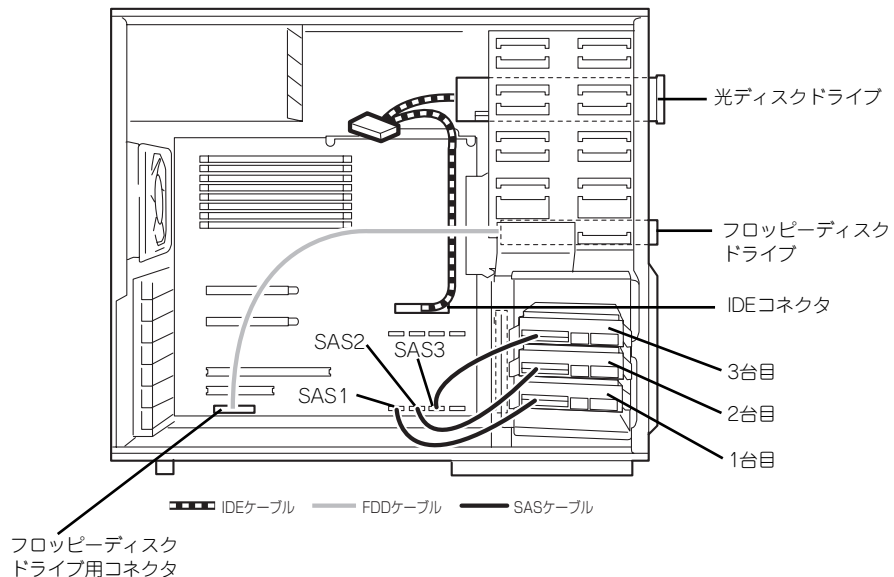
本体のマザーボードには、標準でディスクアレイコントローラを搭載しています。このコントローラによりRAIDドライブを構築することができます。

ディスクアレイを構築するには2台以上のハードディスクドライブが必要です。コントローラの制御や各種設定はコントローラに搭載されているコンフィグレーションユーティリティ「LSI Logic Software RAID Setup Utility」を使用します。詳しくは154ページを参照してください。



ハードディスクドライブは同じ容量および性能のものを使用してください。

1台目（標準装備）のハードディスクドライブのインタフェースケーブルをマザーボード上のSAS1コネクタへ、2台目をSAS2へ、3台目をSAS3へ接続します。



サポートしているRAID構成は、RAID0（ストライピング）とRAID1（ミラーリング）です。

● RAID0(ストライピング)

複数のハードディスクドライブに対してデータを分散して記録する方法です。この方法を「ストライピング」と呼びます。複数のハードディスクドライブへ処理を分散させることによりハードディスクドライブ単体で使用しているときに比べディスクアクセス性能を向上させることができます。



- データを複数のハードディスクドライブに分散して記録しているためアレイを構成しているハードディスクドライブが1台でも故障するとデータの復旧はできません。
- アレイの論理容量は、接続されたハードディスクドライブの整数倍となります。

- RAID1(ミラーリング)


2台のハードディスクドライブに対して同じデータを記録する方法です。この方法を「ミラーリング」と呼びます。データを記録するときに同時に2台のハードディスクドライブに記録するため、使用中に片方のハードディスクドライブが故障しても、もう片方の正常なハードディスクドライブを使用してシステムダウンすることなく継続して運用することができます。


2台のハードディスクドライブが故障したときに、オートリビルドによってデータをリビルドするための予備ハードディスクドライブとして、ホットスペア/スタンバイディスクを3台目に接続することもできます。



- データを複数のハードディスクドライブへ同時にリード/ライトしているため、単体ディスクに比べてディスクアクセス性能は劣ります。
- アレイの論理容量は、接続されたハードディスクドライブ1台と同じとなります。

マザーボードのジャンプスイッチの設定

 **警告**



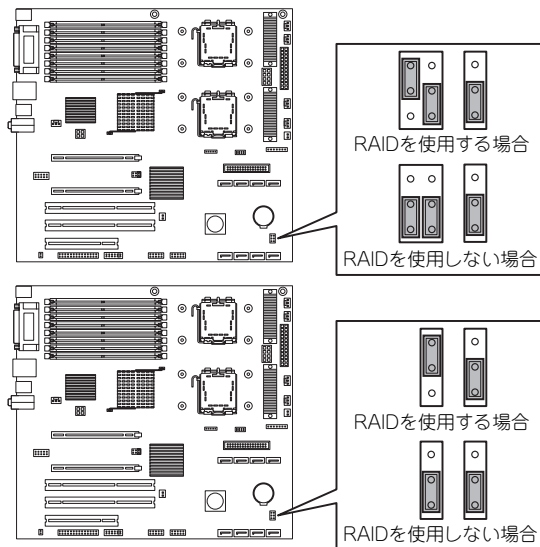
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウム電池を取り外さない
- 電源プラグを差し込んだまま取り扱わない

本体標準装備のSASオンボードディスクアレイを使用する場合は、マザーボードのジャンパを以下の位置に設定して下さい。ジャンパ位置は購入された装置によって2種類ありますので、実装してあるマザーボードを確認していただき、下記どちらかの設定を実施して下さい。



その他のジャンパの設定は変更しないでください。装置の故障や誤動作の原因となります。



本体標準のディスクアレイを使用する場合（SATA）

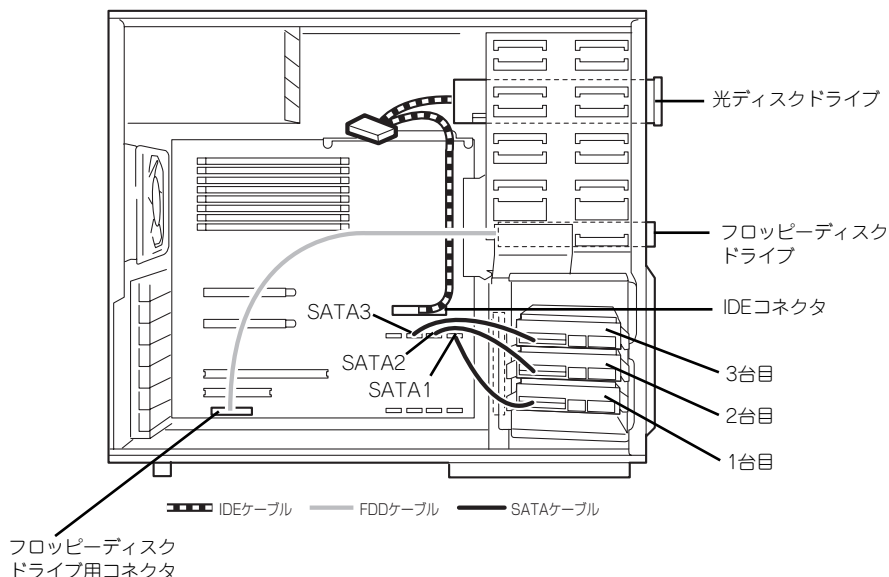
本体のマザーボードには、標準でディスクアレイコントローラを搭載しています。このコントローラによりRAIDドライブを構築することができます。

ディスクアレイを構築するには2台以上のハードディスクドライブが必要です。コントローラの制御や各種設定はコントローラに搭載されているコンフィグレーションユーティリティ「LSI Logic Software RAID Setup Utility」を使用します。詳しくは 154ページを参照してください。



ハードディスクドライブは同じ容量および性能のものを使用してください。

1台目（標準装備）のハードディスクドライブのインタフェースケーブルをマザーボード上のSATA1コネクタへ、2台目をSATA2へ、3台目をSATA3へ接続します。



サポートしているRAID構成は、RAID0（ストライピング）とRAID1（ミラーリング）です。

● RAID0(ストライピング)

複数のハードディスクドライブに対してデータを分散して記録する方法です。この方法を「ストライピング」と呼びます。複数のハードディスクドライブへ処理を分散させることによりハードディスクドライブ単体で使用しているときに比べディスクアクセス性能を向上させることができます。



- データを複数のハードディスクドライブに分散して記録しているためアレイを構成しているハードディスクドライブが1台でも故障するとデータの復旧はできません。
- アレイの論理容量は、接続されたハードディスクドライブの整数倍となります。

- RAID1(ミラーリング)

2台のハードディスクドライブに対して同じデータを記録する方法です。この方法を「ミラーリング」と呼びます。データを記録するときに同時に2台のハードディスクドライブに記録するため、使用中に片方のハードディスクドライブが故障しても、もう片方の正常なハードディスクドライブを使用してシステムダウンすることなく継続して運用することができます。

2台のハードディスクドライブが故障したときに、オートリビルドによってデータをリビルドするための予備ハードディスクドライブとして、ホットスペア/スタンバイディスクを3台目に接続することもできます。



- データを複数のハードディスクドライブへ同時にリード/ライトしているため、単体ディスクに比べてディスクアクセス性能は劣ります。
- アレイの論理容量は、接続されたハードディスクドライブ1台と同じとなります。

マザーボードのジャンプスイッチの設定


警告

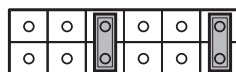
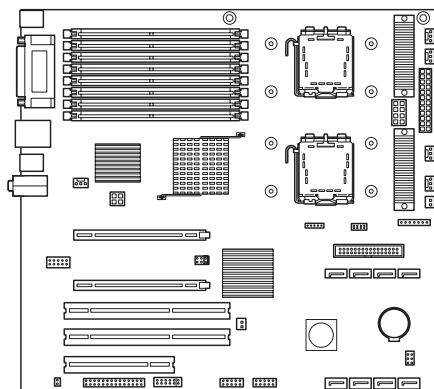

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウム電池を取り外さない
- 電源プラグを差し込んだまま取り扱わない

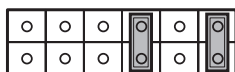
本体標準装備のSATAオンボードディスクアレイを使用する場合は、マザーボードのジャンプを以下の位置に設定して下さい。



その他のジャンプの設定は変更しないでください。装置の故障や誤動作の原因となります。



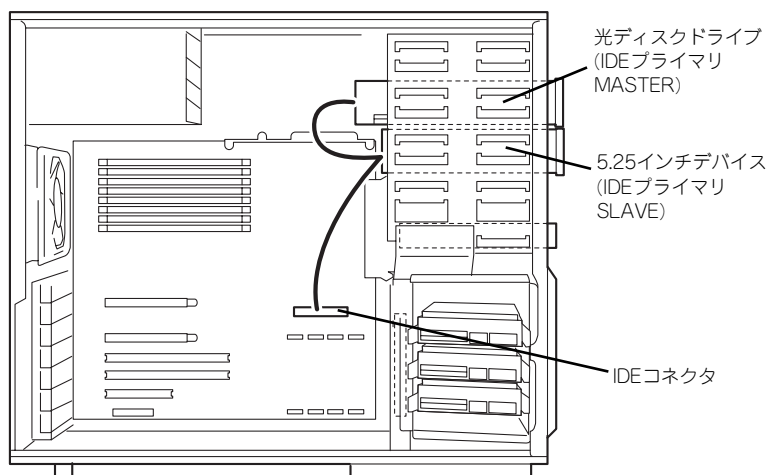
RAIDを使用しない場合



RAIDを使用する場合

5.25インチデバイス(IDE)

DVD-RAMドライブなど、IDEインタフェースデバイスを1台搭載することができます。ケーブルを接続する順序は次のとおりです。

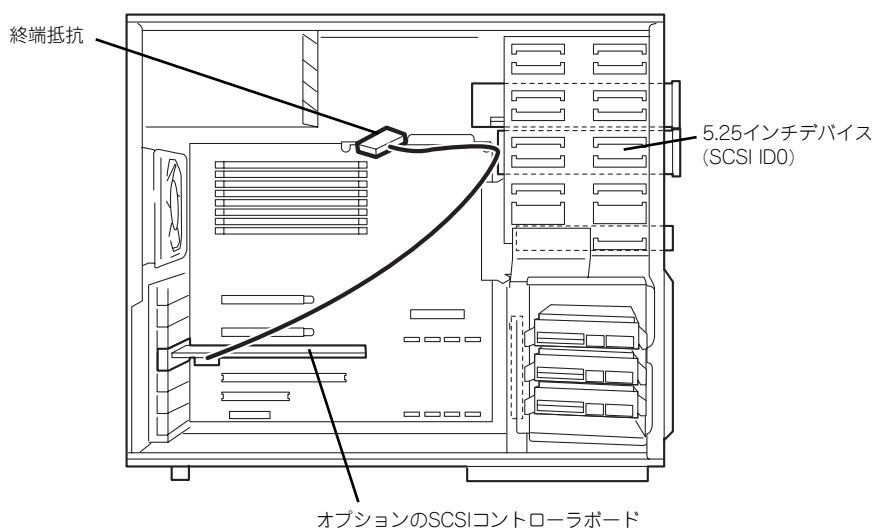


5.25インチデバイス (SCSI)

オプションの内蔵デバイスは、シングルハイトで1台まで内蔵することができます。接続するコネクタはオプションのSCSIコントローラボードです。

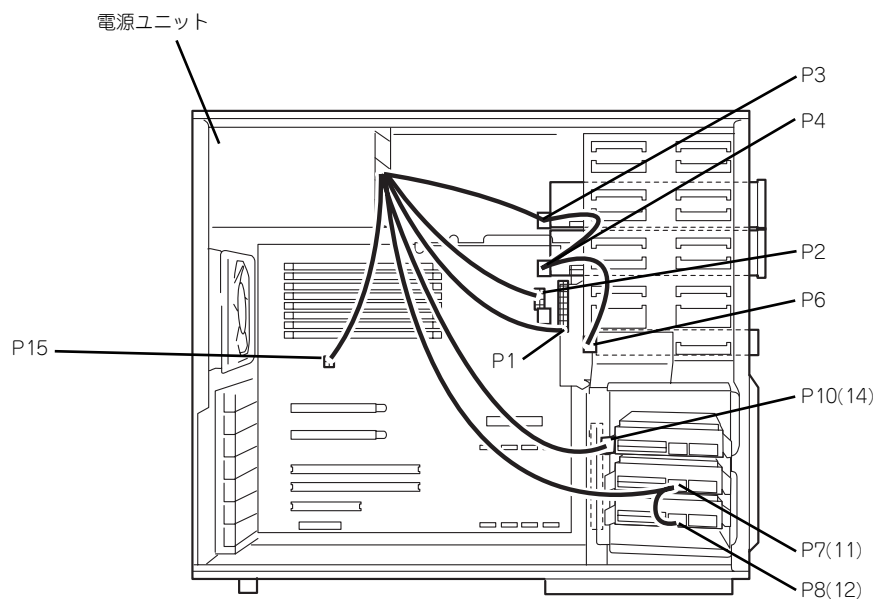
SCSI IDは図の通りです。

SCSIケーブルはオプションのK410-68(00)を使います。



電源ケーブル

電源ケーブルの接続例を示します。カッコはSATAモデルの場合。



BIOSのセットアップ

Basic Input Output System (BIOS) の設定方法について説明します。

本製品を導入したときやオプションの増設／取り外しをするときは、ここで説明する内容をよく理解して、正しく設定してください。

システムBIOS (SETUP)

SETUPは本体の基本ハードウェアの設定をするためのユーティリティツールです。このユーティリティは本体内のフラッシュメモリに標準でインストールされているため、専用のユーティリティなどがなくても実行できます。

SETUPで設定される内容は、出荷時に最も標準で最適な状態に設定していますのでほとんどの場合においてSETUPを使用する必要はありませんが、この後に説明するような場合など必要に応じて使用してください。



- SETUPの操作は、システム管理者（アドミニストレータ）が行ってください。
- SETUPでは、パスワードを設定することができます。パスワードには、「Supervisor」と「User」の2つのレベルがあります。「Supervisor」レベルのパスワードでSETUPにアクセスした場合、すべての項目の変更ができます。「Supervisor」のパスワードが設定されている場合、「User」レベルのパスワードでは、設定内容を変更できる項目が限られます。
- OS（オペレーティングシステム）をインストールする前にパスワードを設定しないでください。
- SETUPユーティリティは、最新のバージョンがインストールされています。このため設定画面が本書で説明している内容と異なる場合があります。設定項目については、オンラインヘルプを参照するか、保守サービス会社に問い合わせてください。
- 本装置では、使用するOSを選択するようなBIOSパラメータ値はありません。プラグ・アンド・プレイのサポート有無に関する設定は特に必要ありません。
- グラフィックスボードとシステムBootで使用する以外のリソースに関してはすべてDisabledに設定するようにして下さい。

起 動

本体の電源をONにするとディスプレイ装置の画面にPOST（Power On Self-Test）の実行内容が表示されます。「NEC」ロゴが表示された場合は、<Esc>キーを押してください。

しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP

ここで<F2>キーを押すと、SETUPが起動してMainメニュー画面を表示します（「NEC」ロゴが表示中に<F2>キーを押してもMainメニュー画面が表示されます）。

以前にSETUPを起動してパスワードを設定している場合は、パスワードを入力する画面が表示されます。パスワードを入力してください。

Enter password:[]

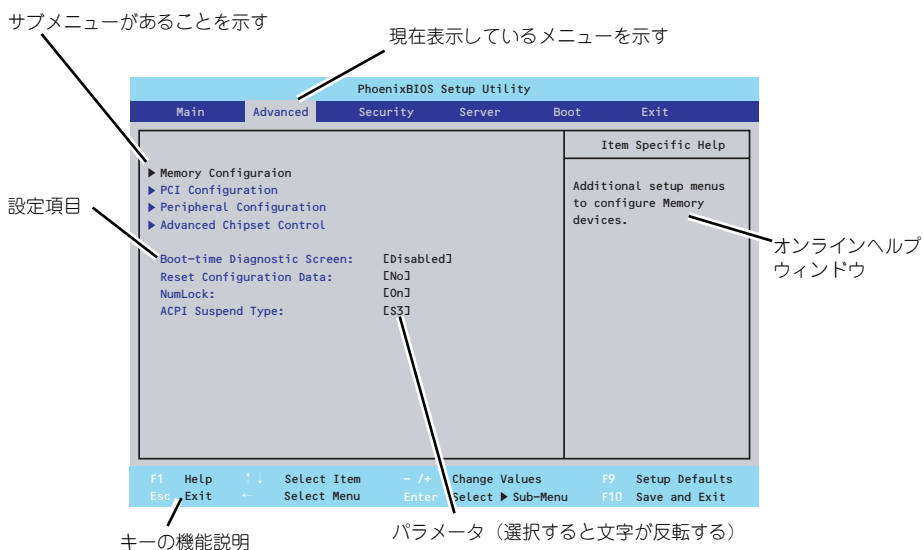
パスワードの入力は、3回まで行えます。3回とも誤ったパスワードを入力すると、本装置は動作を停止します（これより先の操作を行えません）。電源をOFFにしてください。



パスワードには、「Supervisor」と「User」の2種類のパスワードがあります。「Supervisor」では、SETUPでのすべての設定の状態を確認したり、それらを変更したりすることができます。「User」では、確認できる設定や、変更できる設定に制限があります。

キーと画面の説明

キーボード上の次のキーを使ってSETUPを操作します（キーの機能については、画面下にも表示されています）。



- ☐ カーソルキー（↑、↓）

画面に表示されている項目を選択します。文字の表示が反転している項目が現在選択されています。

- ☐ カーソルキー（←、→）

MainやAdvanced、Security、Server、Boot、Exitなどのメニューを選択します。

- ☐ <→キー／<+>キー

選択している項目の値（パラメータ）を変更します。サブメニュー（項目の前に「▶」がついているもの）を選択している場合、このキーは無効です。

☐ <Enter>キー

選択したパラメータの決定を行うときに押します。

☐ <Esc>キー

ひとつ前の画面に戻ります。押し続けると「Exit」メニューに進みます。

☐ <F1>キー

SETUP の操作でわからないことがあったときはこのキーを押してください。SETUPの操作についてのヘルプ画面が表示されます。<Esc>キーを押すと、元の画面に戻ります。

☐ <F9>キー

現在表示している項目のパラメータをデフォルトのパラメータに戻します（出荷時のパラメータと異なる場合があります）。

☐ <F10>キー

新たに選択した内容をCMOSメモリ（不揮発性メモリ）内に保存してSETUPを終了し、システムを再起動します。

設定例

次にソフトウェアと連携した機能や、システムとして運用するときに必要な機能の設定例を示します。

日付・時間の設定

日付や時間の設定は、オペレーティングシステム上でもできます。

「Main」→「System Time」（時刻の設定）

「Main」→「System Date」（日付の設定）

管理ソフトウェアとの連携関連

「ESMPRO/ServerManager」を使ってネットワーク経由で本体の電源を制御する

「Advanced」→「Advanced Chipset Control」→「Wake On LAN/PME」→「Enabled」



Wake ON LAN機能についての注意事項

AC ON直後は、リモートPower ON/OFF機能（Wake ON LAN）は使用できません。一旦Windowsを起動し、以下の設定を行いシャットダウンしてください。その後も、Windowsからのシャットダウン以外では、リモートPower ON/OFF機能を利用できません。

[スタート]→[管理ツール]→[コンピュータの管理]

デバイスマネージャを選択し、ネットワークアダプタ配下のIntel(R)PRO/1000 EB Network Connection with I/O Aceleration #nをダブルクリックし、[詳細設定]のタブから以下を設定してください。

PMEをオンにする：[オン]

Wake On 設定：[Magic Packet]

ハードディスクドライブ関連**ハードディスクドライブの状態を確認する**

「Main」→「Primary(Secondary) IDE Master/Primary(Secondary) IDE Slave」→表示を確認する

UPS関連**UPSと電源連動させる**

- UPSから電源が供給されたら常に電源をONさせる
「Server」→「AC-LINK」→「Power On」
- POWERスイッチを使ってOFFにしたときは、UPSから電源が供給されても電源をOFFのままにする
「Server」→「AC-LINK」→「Last State」

起動関連**本体に接続している起動デバイスの順番を変える**

「Boot」→起動順序を設定する

POSTの実行内容を表示する

「Advanced」→「Boot-time Diagnostic Screen」→「Enabled」

「NEC」ロゴの表示中に<Esc>キーを押しても表示させることができます。

リモートパワーオン機能を使用する

「Advanced」→「Advanced Chipset Control」→「Wake On LAN/PME」/「Wake On Ring」

**Wake ON LAN機能についての注意事項**

AC ON直後は、リモートPower ON/OFF機能（Wake ON LAN）は使用できません。一旦Windowsを起動し、以下の設定を行いシャットダウンしてください。その後も、Windowsからのシャットダウン以外では、リモートPower ON/OFF機能を利用できません。

[スタート]→[管理ツール]→[コンピュータの管理]
デバイスマネージャを選択し、ネットワークアダプタ配下の
Intel(R) PRO/1000 EB Network Connection with I/O Aceleration #n
をダブルクリックし、[詳細設定]のタブから以下を設定してください。

PMEをオンにする：[オン]
Wake On 設定：[Magic Packet]

メモリ関連**搭載しているメモリ(DIMM) の容量を確認する**

「Memory Configuration」→「Installed memory」→表示を確認する

プロセッサ関連

搭載しているCPUの情報を確認する

「Main」→「Processor Settings」→表示を確認する

Windows XPでハイパースレッディング・テクノロジーを使用する

「Main」→「Processor Settings」→「Hyper-Threading Technology」→「Enabled」

キーボード関連

Numlockを設定する

「Advanced」→「NumLock」

セキュリティ関連

BIOSレベルでのパスワードを設定する

「Security」→「Set Supervisor Password is」→パスワードを入力する

「Security」→「Set User Password is」→パスワードを入力する

管理者パスワード（Supervisor）、ユーザーパスワード（User）の順に設定します。

セキュアモードを設定する

「Security」→ユーザーパスワードを登録→「Hot Key (Ctrl + Alt +)」と「Secure Mode Boot」についてを設定する

外付け周辺機器関連

外付け周辺機器に対する設定をする

「Advanced」→「Peripheral Configuration」→それぞれの機器に対して設定をする

内蔵機器関連

本体内蔵のコントローラに対する設定をする

「Advanced」→「PCI Configuration」→それぞれのデバイスに対して設定をする

オプションボードに搭載しているROMを展開させる

「Advanced」→「PCI Configuration」→「PCI Slot n Option ROM(n:スロット番号)」→「Enabled」

ハードウェアの構成情報をクリアする（内蔵機器の取り付け/取り外しの後）

「Advanced」→「Reset Configuration Data」→「Yes」

オプションボードの取り付け/取り外しを行った後は、必ず実行してください。

設定内容のセーブ関連

BIOSの設定内容を保存して終了する

「Exit」 → 「Exit Saving Changes」

変更したBIOSの設定を破棄して終了する

「Exit」 → 「Exit Discarding Changes」

BIOSの設定をデフォルトの設定に戻す

「Exit」 → 「Load Setup Defaults」

カスタム値として設定した内容をロードする。

「Exit」 → 「Load Custom Drfaults」

設定した内容をカスタム値として保持する。

「Exit」 → 「Save Custom Drfaults」

変更したBIOSの設定を破棄する

「Exit」 → 「Discard Changes」

現在の設定内容を保存する

「Exit」 → 「Save Changes」

パラメータと説明

SETUPには大きく6種類のメニューがあります。

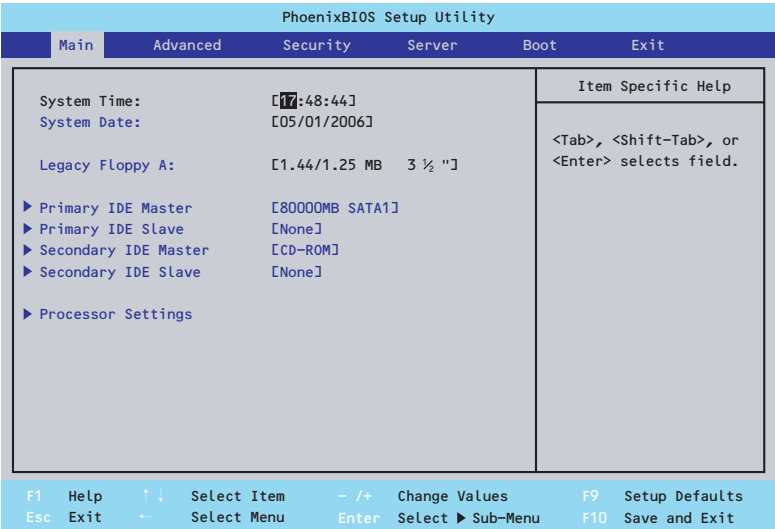
- Mainメニュー
- Advancedメニュー
- Securityメニュー
- Serverメニュー
- Bootメニュー
- Exitメニュー

ここでは、画面に表示されるメニュー別にそれぞれの項目とパラメータの説明をします。

Main

SETUPを起動すると、まずはじめにMainメニューが表示されます。「Processor Settings」はカーソルを項目に合わせて<Enter>キーを押すとサブメニューを表示します。

以下の画面はSATAハードディスクを搭載したモデルでの表示例です。



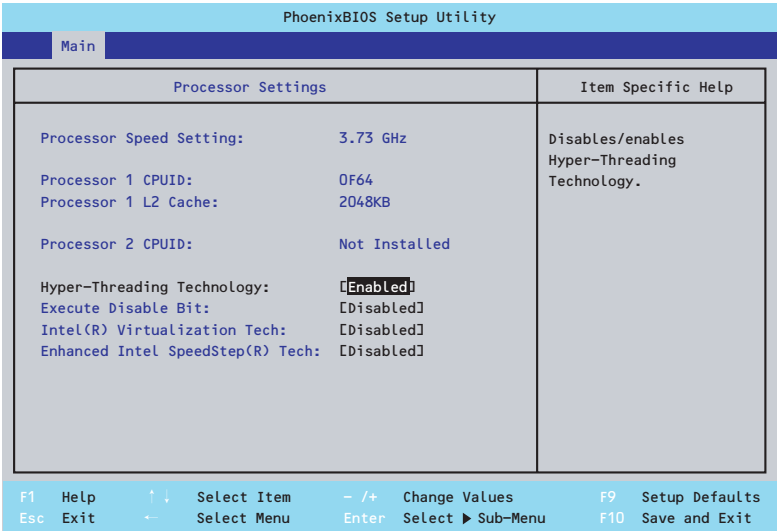
Mainメニューの画面上で設定できる項目とその機能を示します。

項 目	パラメータ	説 明
System Time	HH:MM:SS	時刻の設定をします。
System Date	MM/DD/YYYY	日付の設定をします。
Legacy Floppy A	Disabled 360 Kb 3 1/2" 1.2 MB 5 1/4" 720 Kb 3 1/2" [1.44/1.25MB 3 1/2] 2.88 MB 3 1/2"	フロッピーディスクドライブ（標準装備）の設定をします。通常は「1.44/1.25MB 3 1/2"」を選択してください。
Primary IDE Master Primary IDE Slave Secondary IDE Master Secondary IDE Slave	—	それぞれのチャンネルに接続されているデバイスのタイプを表示します。 サブメニューの設定内容は変更しないでください。

[]: 出荷時の設定

Processor Settings

Mainメニューで「Processor Settings」を選択すると、以下の画面が表示されます。



項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Processor 1 CPU ID	数値 (0FXX) Not Installed	数値の場合はプロセッサ1のIDを示します。 「Not Installed」は取り付けられていないことを示します。(表示のみ)
Processor 1 L2 Cache	—	プロセッサ1のL2キャッシュサイズを示します。(表示のみ)
Processor 2 CPU ID	数値 (0FXX) Not Installed	数値の場合はプロセッサ2のIDを示します。 「Not Installed」は取り付けられていないことを示します。(表示のみ)
Processor 2 L2 Cache	—	プロセッサ2のL2キャッシュサイズを示します。(表示のみ)
Hyper-Threading Technology	[Enabled] Disabled	1つの物理CPUを2つの論理CPUとしてみせて動作させる機能です。「Enabled」に設定すると、1つのCPUが2つに見えます。 注：Hyper-Threading Technologyは、Hyper-Threading Technologyに対応したCPUを搭載した場合のみ表示されます。Windows XP以外のOSを使用する場合は、「Disabled」に設定してください。出荷時設定は、モデルで異なります。
Execute Disabled Bit	[Disabled] Enabled	Enabledに設定するとWindows OSのDEP機能が利用可能になります。
Intel(R) Virtualization Tech	[Disabled] Enabled	インテルプロセッサが提供する「仮想化技術」機能の有効/無効を設定します。

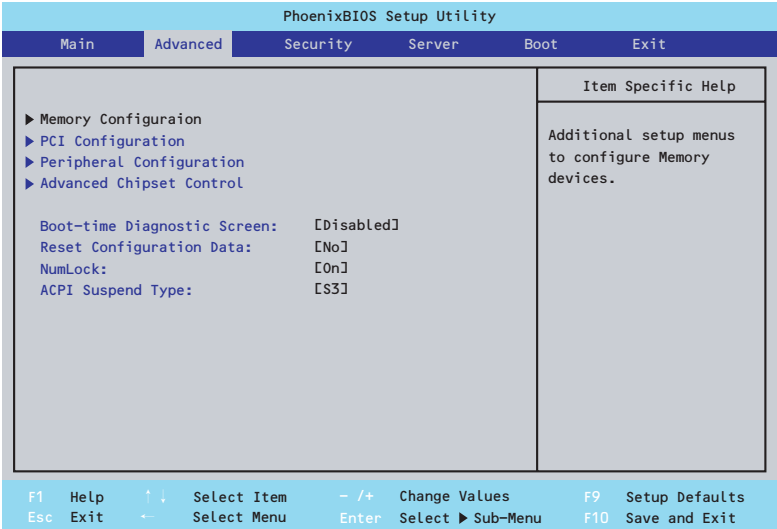
項 目	パラメータ	説 明
Enhanced Intel SpeedStep(R) Tech	[Disabled] Enabled	オペレーティングシステムによるプロセッサの駆動電圧抑止機能の有効／無効を設定します。[Disabled]で常に最高周波数で駆動するための電力を供給します。 注：Enhanced Intel SpeedStep(R) Technologyに対応したCPUを搭載した場合にのみ表示されます。

[]: 出荷時の設定

Advanced

カーソルを「Advanced」の位置に移動させると、Advancedメニューが表示されます。

項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



Advancedメニューの画面上で変更できる項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Boot-time Diagnostic Screen	[Disabled] Enabled	起動時の自己診断（POST）の実行画面を表示させるか、表示させないかを設定します。「Disabled」に設定すると、POSTの間、「NEC」ロゴが表示されます。（ここで<Esc>キーを押すとPOSTの実行画面に切り替わります。）
Reset Configuration Data	[No] Yes	Configuration Data(POSTで記憶しているシステム情報) をクリアするときは「Yes」に設定します。システムの起動後にこのパラメータは「No」に切り替わります。
NumLock	[On] Off	システム起動時にNumlockの有効/無効を設定します。
ACPI Suspend Type	[S3] S1	OSによる省電力機能（電源管理がACPIモード）をサポートしている場合にスリープ（サスペンド）モードの設定ができます。

[]: 出荷時の設定



「ACPI Standby State」について

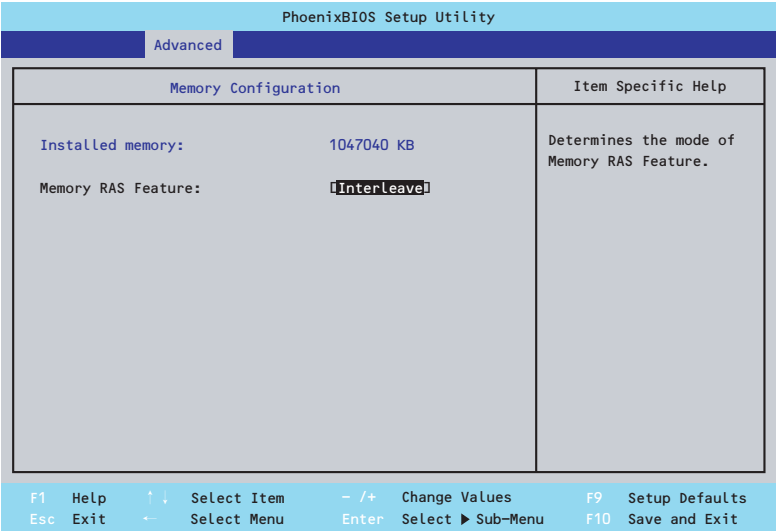
「S3（出荷時の設定）」は、システムメモリを除くすべてのシステムコンテキストを失います。ハードウェアはメモリコンテキストを管理し、CPUとセカンドキャッシュの構成情報をリストアします。「S1」はスリープ中でもCPUやチップセットなどのシステムコンテキストを失いません。また、ハードウェアはすべてのシステムコンテキストを管理しています。「S3」に設定すると、POWER/SLEEPスイッチを押してスリープ状態から復帰するときに、「（電源オプションのプロパティでの）モニタの電源を切る」の状態復帰する場合があります（画面に出力されない）キーボードかマウスを操作すると通常状態に戻ります。オプションボードによっては、「S3」に設定していると、スリープ状態から復帰しない場合があります。その場合は、「S1」に設定して使用してください。



「ACPI Suspend Type」を「S3」に設定して、OS上からスタンバイ状態にする場合は、本体に搭載するメモリ容量を12GB以下にする必要があります。

Memory Configuration

Advancedメニューで「Memory Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。



項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Installed memory	xxxxxxx KB	搭載メモリの容量を表示します。 (表示のみ)
Memory RAS Feature	[Inter leave] Mirror	メモリミラー機能を使用する場合は、 「Mirror」を選択してください。

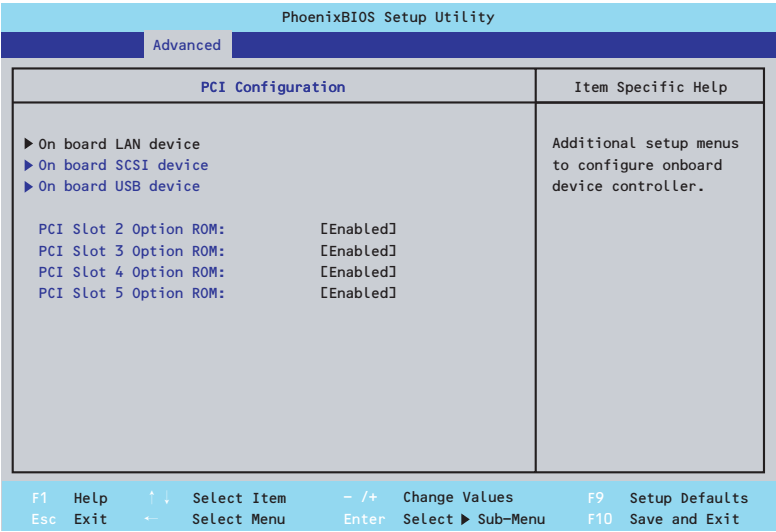
[]: 出荷時の設定



搭載しているPCI/AGPボードなどの構成によっては、実際に搭載している物理メモリ容量より少なく表示される場合があります (POSTのメモリカウントやOSのシステム情報で表示される内容も同じです)。

PCI Configuration

Advancedメニューで「PCI Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



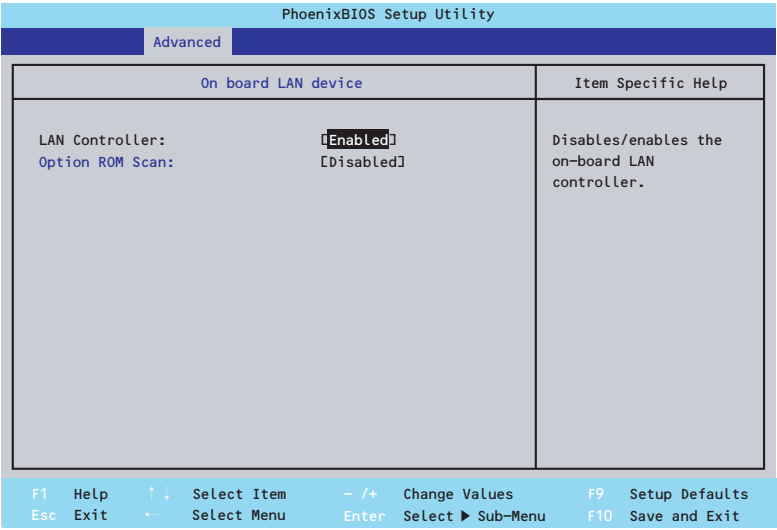
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
PCI Slot n Option ROM (n: 2～5)	[Enabled] Disabled	PCIスロットに接続されているデバイス（ボード）に搭載されているBIOSの有効/無効を設定するサブメニューを表示します。グラフィックスアクセラレータボードを取り付ける際や、取り付けようとしているSCSIコントローラボードなどにOSがインストールされているハードディスクを接続する際にはそのスロットを「Enabled」に設定してください。オプションROM BIOSを搭載したLANコントローラボードを使用していて、このボードからネットワークブートをしないときは「Disabled」にしてください。

[]: 出荷時の設定

● On board LAN device

Advancedメニューで「PCI Configuration」－「On board LAN device」を選択すると、次の画面が表示されます。



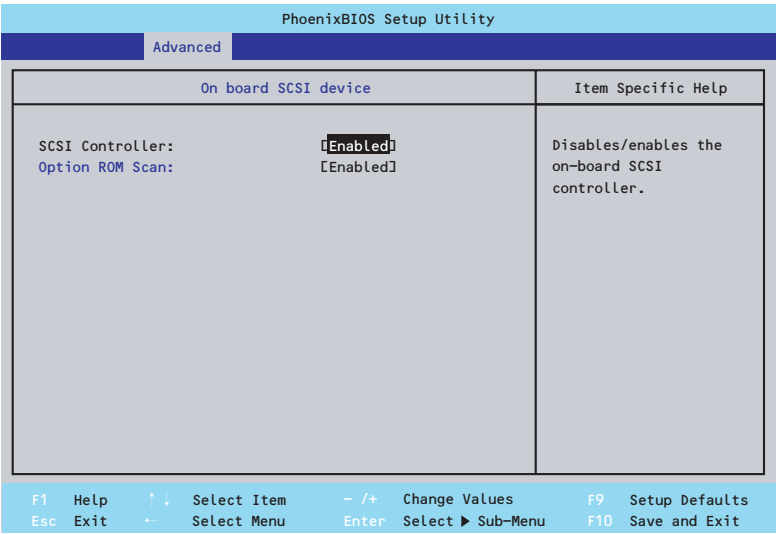
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
LAN Controller	[Enabled] Disabled	オンボードLANコントローラの有効/無効を設定します。
Option ROM Scan	[Disabled] Enabled	オンボードLANチップを用いてのPXE Bootの有効/無効を設定します。 本装置のネットワークポートに接続しているネットワーク上のデバイスから起動する場合は、「Enabled」に設定してください。 また、本装置の再セットアップをする場合は、「Disabled」に戻してください。また、オプションボードを搭載し、起動OSがインストールされたハードディスクドライブを接続している場合もこの設定を「Disabled」に設定してください。なお、「Enabled」に設定する場合は、「Periheral Configuration」－「SATA RAID Enable」を必ず、「Disabled」に設定して下さい。

[]: 出荷時の設定

● On board SCSI device

Advancedメニューで「PCI Configuration」－「On board SCSI device」を選択すると、次の画面が表示されます（SCSIハードディスクモデルの場合のみ表示されます）。



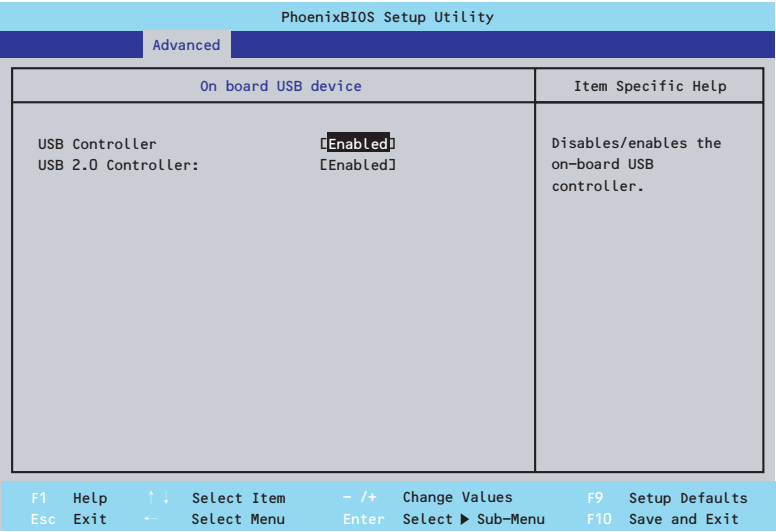
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
SCSI Controller	[Enabled] Disabled	オンボードSCSIコントローラの有効/無効を設定します。
Option ROM Scan	[Enabled] Disabled	オンボードSCSIコントローラ用のBIOSの有効/無効を設定します。

[]: 出荷時の設定

● On board USB device

Advancedメニューで「PCI Configuration」－「On board USB device」を選択すると、次の画面が表示されます。



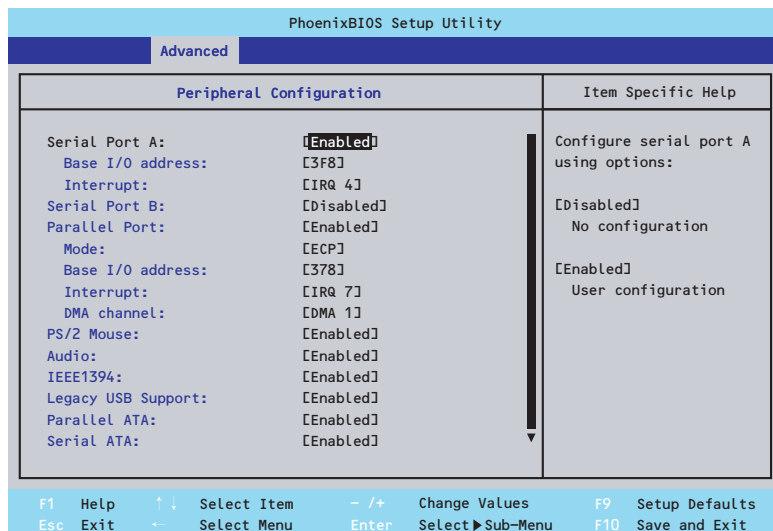
項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
USB Controller	[Enabled] Disabled	オンボードUSBコントローラの有効／無効を設定します。
USB 2.0 Controller	[Enabled] Disabled	オンボードUSBコントローラでUSB 2.0をサポートさせるかどうかを設定します。 USB Controllerが「Enabled」の場合のみ表示されます。

[]: 出荷時の設定

Peripheral Configuration

Advancedメニューで「Peripheral Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。



項目については次の表を参照してください。

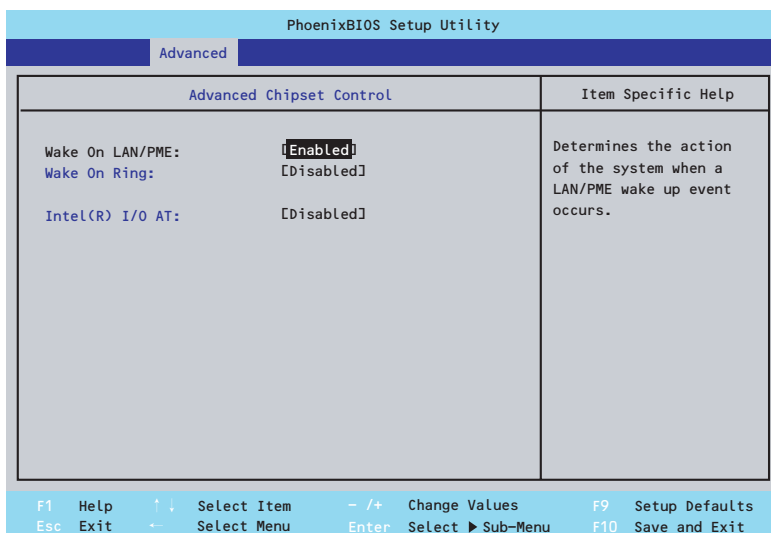
項 目	パラメータ	説 明
Serial Port A	[Enabled] Disabled	シリアルポートAの有効/無効を設定します。
Base I/O address	[3F8] 2F8 3E8 2E8	シリアルポートAの割り当てるI/Oアドレスを指定します。
Interrupt	[IRQ4] IRQ3	シリアルポートAに割り当てる割り込みを指定します
Serial Port B	[Disabled] Enabled	シリアルポートBの有効/無効を設定します。
Parallel Port	[Enabled] Disabled	パラレルポートの有効/無効を設定します。
Mode	Output only Bi-directional EPP [ECP]	パラレルポートの動作モードを指定します
Base I/O address	[378] 278	パラレルポートの割り当てるI/Oアドレスを指定します。
Interrupt	[IRQ7] IRQ5	パラレルポートに割り当てる割り込みを指定します
DMA Channel	[DMA 1] DMA 3	パラレルポートのDMAチャンネル番号を設定します。このメニューは「Parallel Port Mode」を「ECP」以外に設定したときには表示されません。

項 目	パラメータ	説 明
PS/2 Mouse	[Enabled] Disabled	マウスの有効/無効を設定します。
Audio	[Enabled] Disabled	内蔵のオーディオコントローラの有効/無効を設定します。
IEEE1394	[Enabled] Disabled	IEEE1394の有効/無効を設定します。
Legacy USB Support	[Enabled] Disabled	USBを正式にサポートしていないOSでもUSBキーボードが使用できるようにするかどうかを設定します。「USB Controller」が「Enabled」のときに表示されます。
Parallel ATA	[Enabled] Disabled	内蔵のIDEコントローラ（光ディスクドライブ）の有効/無効を設定します。
Serial ATA	[Enabled] Disabled	内蔵のシリアル ATAコントローラの有効/無効を設定します。
Native Mode Operation	[Auto] Serial ATA	IDEコントローラをPCIデバイスとして認識させるかどうかを設定します。デフォルト値の「Auto」から変更しないでください。
SATA Controller Mode Option	[Compatible] Enhanced	LSI Logic Embedded MegaRAID™を有効にするときに「Enhanced」に設定します。通常は「Compatible」に設定してください。
SATA AHCI Enable	[Disabled] Enabled	SATAのAHCI機能の有効/無効を設定します。「SATA Controller Mode Option」が「Enhanced」で「SATA RAID Enable」が「Disabled」の時に表示されます。
SATA RAID Enable	[Disabled] Enabled	LSI Logic Embedded MegaRAID™機能の有効/無効を設定します。「SATA Controller Mode Option」が「Enhanced」の時に表示されます。

[]: 出荷時の設定

Advanced Chipset Control

Advancedメニューで「Advanced Chipset Control」を選択すると、以下の画面が表示されます。



項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Wake On LAN/PME	[Enabled] Disabled	ネットワークを介したリモートパワーオン機能やPCI デバイスのPME信号からのリモートパワーオン機能の有効/無効を設定します。
Wake On Ring	[Disabled] Enabled	シリアルポートを介したリモートパワーオン機能の有効/無効を設定します。
Intel(R) I/O AT	[Disabled] Enabled	Intel® I/Oアクセラレーションテクノロジー機能の有効/無効を設定します。

[]: 出荷時の設定



Wake ON LAN機能についての注意事項

AC ON直後は、リモートPower ON/OFF機能（Wake ON LAN）は使用できません。一旦Windowsを起動し、以下の設定を行いシャットダウンしてください。その後も、Windowsからのシャットダウン以外では、リモートPower ON/OFF機能を利用できません。

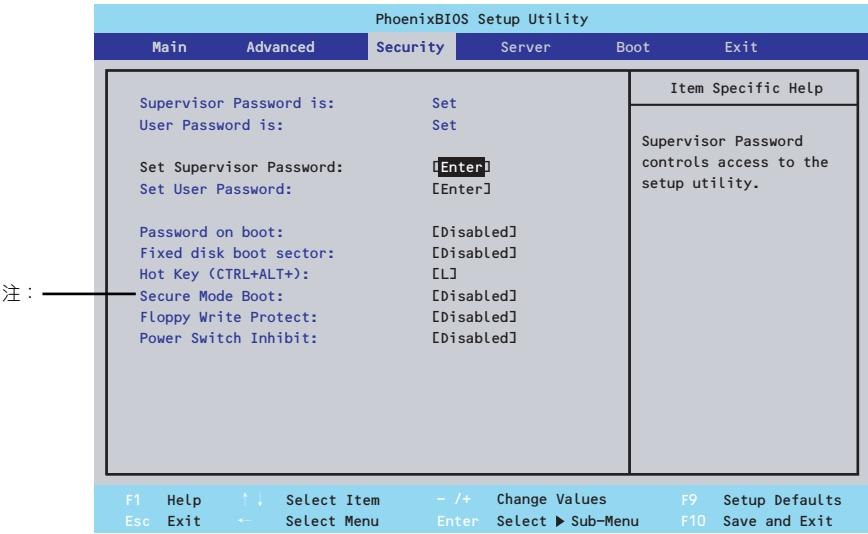
[スタート]→[管理ツール]→[コンピュータの管理]
デバイスマネージャを選択し、ネットワークアダプタ配下の
Intel(R)PRO/1000 EB Network Connection with I/O Aceleration #n
をダブルクリックし、[詳細設定]のタブから以下を設定してください。

PMEをオンにする：[オン]

Wake On 設定：[Magic Packet]

Security

カーソルを「Security」の位置に移動させると、Securityメニューが表示されます。



注：「Secure Mode（セキュアモード）」と呼ばれるセキュリティモードの設定項目です。User Passwordを登録している場合のみ選択できます。「HotKey」は、「Peripheral Configuration」－「Legacy USB Support」を「Enabled」にしたときに機能します。セキュアモードは、ユーザパスワードを持つ利用者以外からのアクセスを制限するモードです。セキュアモードを解除するまでキーボード、マウスは機能しません。セキュアモードの状態にあるシステムを通常の状態に戻すには、キーボードからユーザパスワードを入力して<Enter>キーを押してください。

Set Supervisor PasswordもしくはSet User Passwordのどちらかで<Enter>キーを押すとパスワードの登録/変更画面が表示されます。

ここでパスワードの設定を行います。パスワードは8文字以内の英数字および記号でキーボードから直接入力します。



- 「User Password」は、「Supervisor Password」を設定していないと設定できません。
- Secure Modeは「Supervisor Password」および「User Password」を設定していないと設定できません。
- OSのインストール前にパスワードを設定しないでください。
- パスワードを忘れてしまった場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Supervisor Password is	Set Clear	パスワードの設定状態を示します。
User Password is	Set Clear	パスワードの設定状態を示します。
Set Supervisor Password	8文字までの英数字	<Enter>キーを押すとスーパーバイザのパスワード入力画面になります。このパスワードですべてのSETUPメニューにアクセスできます。この設定は、SETUPを起動したときのパスワードの入力で「Supervisor」でログオンしたときのみ設定できます。
Set User Password*	8文字までの英数字	<Enter>キーを押すとユーザーのパスワード入力画面になります。このパスワードではSETUPメニューへのアクセスが制限されます。
Password on boot*	[Disabled] Enabled	起動時にパスワードの入力を行う/行わないの設定をします。先にスーパーバイザのパスワードを設定する必要があります。もし、スーパーバイザのパスワードが設定されていて、このオプションが無効の場合はBIOSはユーザーがブートしていると判断します。
Fixed disk boot sector	[Disabled] Enabled	ハードディスクドライブのブートセクタへの書き込みを許可するか禁止するかどうかを設定します。
Hot key (CTRL+ALT+)**	[L] Z	セキュアモードを起動させるキーを設定します。<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら設定したキーを押すとセキュアモードが起動します。
Secure Mode Boot**	[Disabled] Enabled	システムの起動時にセキュアモードで起動させるかどうかを設定します。
Floppy Write Protect**	[Disabled] Enabled	セキュアモードの間、フロッピーディスクドライブにセットしたフロッピーディスクへの書き込みを許可するかを設定します。
Power Switch Inhibit**	[Disabled] Enabled	Powerスイッチ機能の有効/無効を設定します。

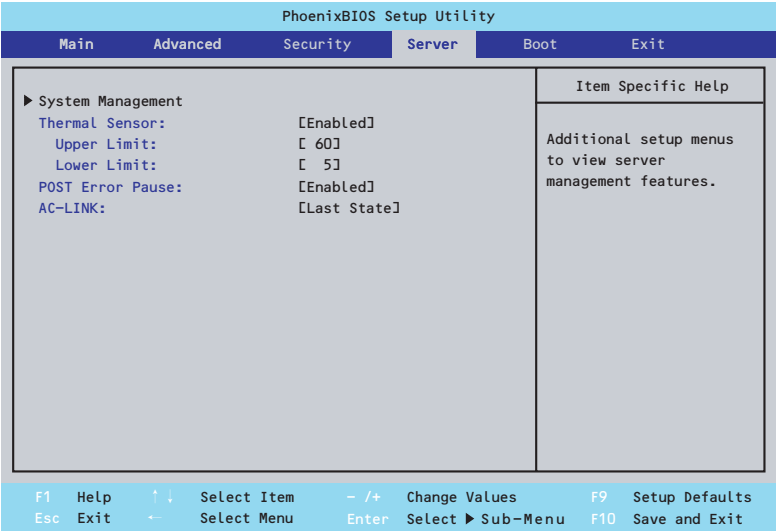
* 「Set Supervisor Password」でパスワードを登録したときに指定できます。

** 「Set Supervisor Password」「Set User Password」の両方のパスワードを登録したときに表示されます。

[]: 出荷時の設定

Server

カーソルを「Server」の位置に移動させると、Serverメニューが表示されます。
項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Thermal Sensor	[Enabled] Disabled	温度センサ監視機能の有効/無効を設定します。
Upper Limit	7~[60]~80	起動抑止を行う上限値を設定します（単位は「℃」）。
Lower Limit	0~[5]~73	起動抑止を行う下限値を設定します（単位は「℃」）。
Post Error Pause	[Enabled] Disabled	POSTの実行中にエラーが発生した際に、POSTの終わりでPOSTをいったん停止するかどうか設定します。
AC-LINK	Power On [Last State] Stay Off	ACリンク機能を設定します。AC電源が再度供給されたときのシステムの電源の状態を設定します（下記参照）。

[]: 出荷時の設定

「AC LINK」の設定と本体のAC電源がOFFになってから再度電源が供給されたときの動作を次の表に示します。

再度、AC電源を受電すると、本体は約3秒ほど電源ONの状態になります（内蔵ファンが一度回転を始め、停止します）。その後の動作は、「AC-LINK」の設定とAC電源がOFFになったときの状態によって下表のようになります。

パラメータ	ShutDown (DC-Off) 後のAC-OFF	UPS制御および突然のAC-OFF
StayOff	DC-OFF（待機）	DC-OFF（待機）
LastState	DC-OFF（待機）	DC-Onして起動
PowerOn	DC-Onして起動	DC-Onして起動

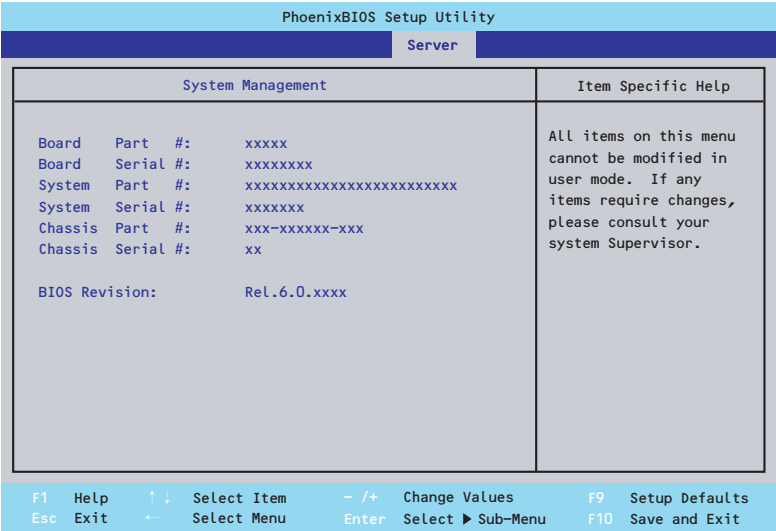


AC-LINKの機能を正しく動作させるためには、BIOS SETUPで設定後、必ず一度はPOSTを通してください。

また、POST中、OS起動中にかかわらず、4秒押しによる電源OFF後は、一度OSを起動させて正常な方法で電源をOFFにしてください。

System Management

Serverメニューで「System Management」を選択し、<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。

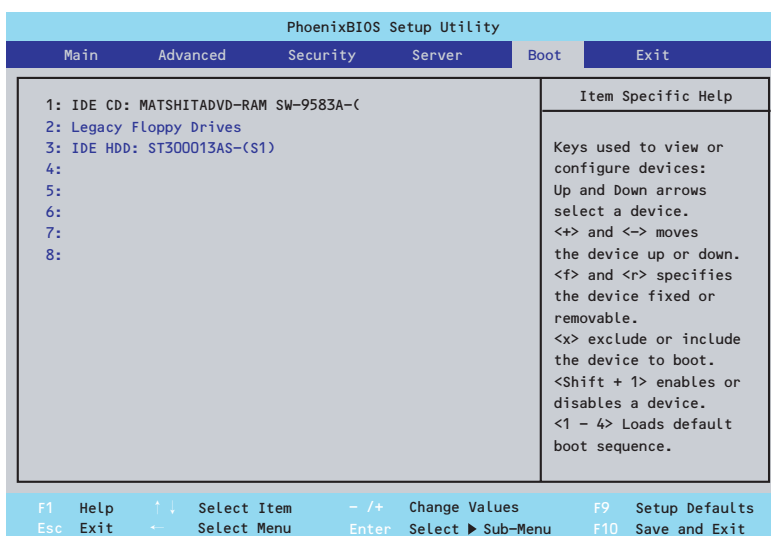


項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメータ	説 明
Board Part #	—	マザーボードの部品番号を表示します（表示のみ）。
Board Serial #	—	マザーボードのシリアル番号を表示します（表示のみ）。
System Part #	—	本体のコードを表示します（表示のみ）。
System Serial #	—	本体のシリアル番号を表示します（表示のみ）。
Chassis Part #	—	シャーシの部品番号を表示します（表示のみ）。
Chassis Serial #	—	シャーシのシリアル番号を表示します（表示のみ）。
BIOS Version	—	BIOSのバージョンを表示します（表示のみ）。

Boot

カーソルを「Boot」の位置に移動させると、起動順位を設定するBootメニューが表示されます。



システムは起動時にこのメニューで設定した順番に機器をサーチし、起動ソフトウェアを見つけるとそのソフトウェアで起動します。

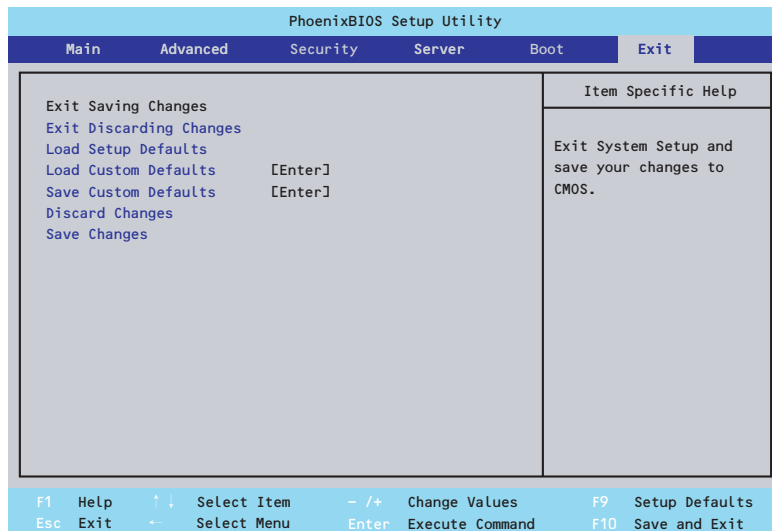
<↑>キー / <↓>キー、<+>キー / <->キーでブートデバイスの優先順位を変更できます。各機器の位置へ<↑>キー / <↓>キーで移動させ、<+>キー / <->キーで優先順位を変更できます。



EXPRESSBUILDERを起動する場合は、上図に示す順番に設定してください。

Exit

カーソルを「Exit」の位置に移動させると、Exitメニューが表示されます。



このメニューの各オプションについて以下に説明します。

Exit Saving Changes

新たに選択した内容をCMOSメモリ（不揮発性メモリ）内に保存してSETUPを終わらせる時に、この項目を選択します。Exit Saving Changesを選択すると、確認の画面が表示されます。

ここで、「Yes」を選ぶと新たに選択した内容をCMOSメモリ内に保存してSETUPを終了し、システムは自動的にシステムを再起動します。

Exit Discarding Changes

新たに選択した内容をCMOSメモリ内に保存しないでSETUPを終わらせたい時にこの項目を選択します。

ここで、「No」を選択すると、変更した内容を保存しないでSETUPを終わらせることができます。「Yes」を選択すると変更した内容をCMOSメモリ内に保存してSETUPを終了し、システムは自動的にシステムを再起動します。

Load Setup Defaults

SETUPのすべての値をデフォルト値に戻したい時に、この項目を選択します。Load Setup Defaultsを選択すると、確認の画面が表示されます。

ここで、「Yes」を選択すると、デフォルト値に戻ります。「No」を選択するとExitメニューの画面に戻ります。

Load Custom Defaults

「Save Custom Defaults」でパラメータを設定した場合に表示されます。

ここで[Yes]を選択すると、カスタムデフォルト値をロードします。[No]を選択すると、Exitメニューの画面に戻ります。

Save Custom Defaults

このメニューを選択して<Enter>キーを押すと、現在設定しているパラメータをカスタムデフォルト値として保存します。

Discard Changes

CMOSメモリに値を保存する前に今回の変更を以前の値に戻したい場合は、この項目を選択します。「Discard Changes」を選択すると確認画面が表示されます。

ここで「Yes」を選ぶと、新たに選択した内容が破棄されて、以前の内容に戻ります。「No」を選ぶと現在の変更内容の状態でExitメニュー画面に戻ります。

Save Changes

SETUPを終了せずに、新たに選択した内容をCMOSメモリ内に保存する時は、この項目を選択します。「Save Changes」を選択すると確認画面が表示されます。

ここで「Yes」を選ぶと、新たに選択した内容をCMOSメモリ内に保存します。「No」を選ぶと何も変更せずにExitメニュー画面に戻ります。



本体標準装備のRAID機能を使用してシリアルATAハードディスクドライブをディスクアレイで使用している場合は、151ページを参照してジャンプスイッチの設定を変更してください。

SAS BIOS

POST中に<CTRL>+<C>でSAS BIOSに入力出来る画面が表示されますが、デフォルトから変更しないで下さい。

リセットとクリア

本装置が動作しなくなったときやBIOSで設定した内容を出荷時の設定に戻すときに参照してください。

リセット

OSが起動する前に動作しなくなったときは、<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら、<Delete>キーを押してください。リセットを実行します。

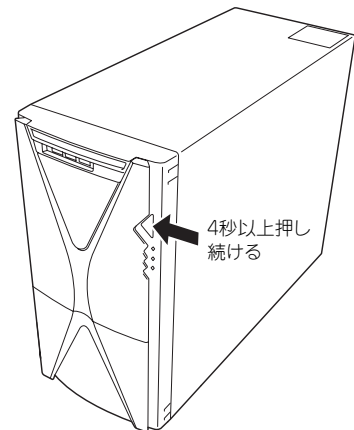


リセットは、本体のDIMM内のメモリや処理中のデータをすべてクリアしてしまいます。ハングアップしたとき以外でリセットを行うときは、本装置がなにも処理していないことを確認してください。

強制電源OFF

オペレーティングシステムからシャットダウンできなくなったときや、POWERスイッチを押しても電源をOFFにできなくなったとき、リセットが機能しないときなどに使用します。

本体のPOWERスイッチを4秒ほど押し続けてください。電源が強制的にOFFになります（電源を再びONにするときは、電源OFFから約10秒ほど待ってから電源をONにしてください）。



- リモートパワーオン機能を使用している場合は、一度、電源をONにし直して、OSを起動させ、正常な方法で電源をOFFにしてください。
- プロセッサが異常高温になると、高価な部品を保護するための回路が作動します。この場合、システムはリセット状態となるため、POWER/SLEEPスイッチによる電源制御ができなくなります。電源コードを抜いて電源をOFFにし、運用環境（周囲温度など）を確認した後、しばらくしてから再度、電源コードを接続し、電源をONにする必要があります。なお、プロセッサが冷却されるまでの間（通常であれば5分程度）は、電源をOFFの状態にしておく必要がある場合もあります。

CMOSメモリのクリア

CMOSメモリに保存されているBIOSセットアップユーティリティの設定内容をクリアする場合は本体内部のジャンプスイッチを操作して行います。



- CMOSメモリの内容をクリアするとBIOSセットアップユーティリティの設定内容がすべてデフォルトの設定に戻ります。
- その他のジャンパの設定は変更しないでください。装置の故障や誤動作の原因となります。

次にクリアする方法を示します。



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウムバッテリーを取り外さない
- 電源プラグを接続したまま取り扱わない



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 高温注意
- 中途半端に取り付けない



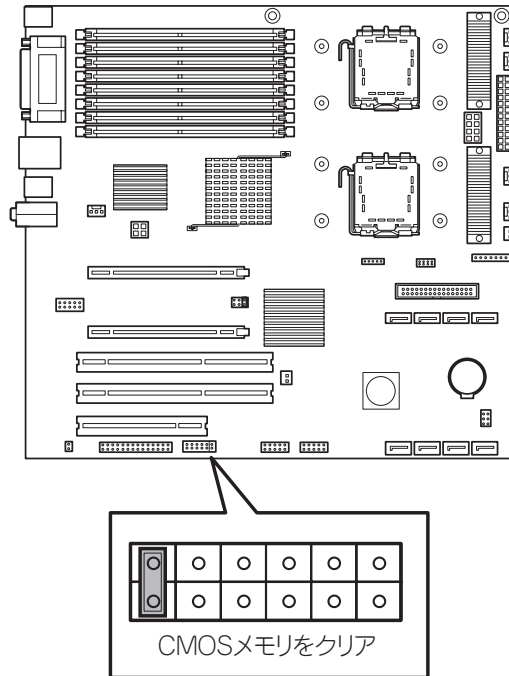
本体内部の部品は大変静電気に弱い電子部品です。本体の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてから取り扱ってください。内部の部品や部品の端子部分を素手で触らないでください。静電気に関する説明は84 ページで詳しく説明しています。

1. 85ページを参照して準備をする。
2. 85ページを参照してレフトサイドカバーを取り外す。

- ジャンプスイッチの設定を変更する。



クリップをなくさないよう注意してください。



- 本体を元どおりに組み立ててPOWER/SLEEPスイッチを押す。
- POSTを終了したら、電源をOFFにする。
- ジャンプスイッチの設定を元に戻した後、もう一度電源をONにして設定し直す。

割り込みラインとI/Oポートアドレス

割り込みラインやI/Oポートアドレスは、出荷時に次のように割り当てられています。オプションを増設するときなどに参考にしてください。

● 割り込みライン

出荷時では、次のように割り当てられています。

IRQ	周辺機器（コントローラ）	IRQ	周辺機器（コントローラ）
0	システムタイマ	8	リアルタイムクロック
1	キーボード	9	SCI
2	カスケード接続	10	—
3	COM 2シリアルポート	11	—
4	COM 1シリアルポート	12	マウス
5	—	13	数値演算プロセッサ
6	フロッピーディスク	14	IDE チャンネル0
7	パラレルポート	15	IDE チャンネル1

● PIRQとPCIデバイスの関係

出荷時では、以下のように設定されています。

メニュー項目	割り込み
PCI IRQ 1	USB#1、USB2.0、PCI#5 INTA、Audio
PCI IRQ 2	USB#2、IEEE 1394、PCI#5 INTB
PCI IRQ 3	USB#3、PCI#5 INTC
PCI IRQ 4	USB#4、PCI#5 INTD
PCI IRQ 5	—
PCI IRQ 6	—
PCI IRQ 7	—
PCI IRQ 8	—
PXIRQ0	PCI-X#3 INTA、PCI-X#4 INTB
PXIRQ1	PCI-X#3 INTB、PCI-X#4 INTC
PXIRQ2	PCI-X#3 INTC、PCI-X#4 INTD
PXIRQ3	PCI-X#3 INTD、PCI-X#4 INTA

● I/Oポートアドレス

アドレス*	使用チップ
20 - 21	チップセット
2E - 2F	スーパー I/O
40 - 43	システムタイマ
60, 64	キーボード/マウスコントローラ
61	システムスピーカ
70, 71	リアルタイムクロック
80 - 8F	DMAコントローラ
92	チップセット
A0 - A1	インターラプトコントローラ
B2	チップセット
F0	チップセット
170 - 177	IDEコントローラ
1F0 - 1F7	IDEコントローラ標準
278 - 27F	(パラレルポート)
295 - 296	ハードウェアモニタ
2F8 - 2FF	シリアルポート
376	IDEコントローラ標準
370 - 377	(ディスケットコントローラ)、IDEコントローラ標準
378 - 37F	(パラレルポート)
3BC - 3BE	パラレルポート
3F6	IDEコントローラ
3F0 - 3F7	ディスケットコントローラ、IDEコントローラ
3F8 - 3FF	シリアルポート
4D0 - 4D1	チップセット
CF8, CFC	チップセット
CF9	チップセット
F50 - F58	チップセット
500 - 5FF	RASチップ

* 16進数で表記しています

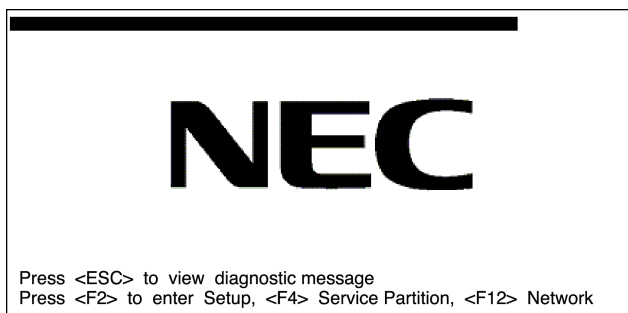
Setup Utility

ここでは、本製品のコンフィグレーションツール、LSI Logic Software RAID Setup Utilityについて説明します。このユーティリティは、LSI Logic Software RAIDに常駐するため、その操作はOSからは独立しています。

LSI Logic Software RAID Setup Utilityの起動

1. 本体装置の電源投入後、次に示す画面が表示された時に、<Esc>キーを押す。

POSTの画面が表示されます。



2. POST画面で、以下の表示を確認したら、<Ctrl>+<M>キーまたは<Enter>キーを押す。

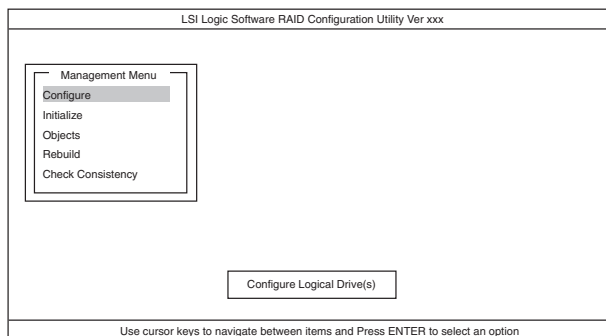
LSI Logic Software RAID Setup Utilityが起動します。

```
LSI Logic SoftwareRAID BIOS Version xxxxxx
LSI Logic SATA RAID Found PCI Bus No:00 Dev No:1F
Scanning for Port 00 Responding xxxxxxxx xxxxMB
Press <Ctrl><M> to Run LSI Logic SoftwareRAID Setup Utility
```



「Control-M」をクリックしてください。
LSI Logic Software RAID Setup Utilityが起動します。

LSI Logic Software RAID Configuration Utility TOPメニュー(Management Menu)画面



LSI Logic Software RAID Setup Utilityの終了

LSI Logic Software RAID Setup UtilityのTOPメニューで<Esc>キーを押します。
確認のメッセージが表示されたら「Yes」を選択してください。

Press <Ctrl> <Alt> to REBOOT the system.

上に示すメッセージが表示されたら、<Ctrl>+<Alt>+キーを押します。本体装置が再起動します。

メニューツリー

◇：選択・実行パラメータ ●：設定パラメータ ・：情報表示

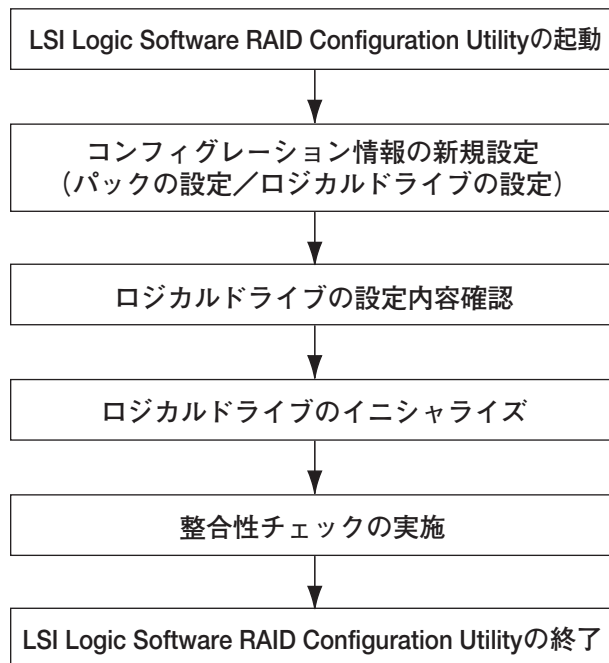
◆：ロジカルドライブ生成後設定（変更）可能

メニュー	説明
◇Configure	Configuration設定を行う
◇Easy Configuration	Configurationの設定(固定値使用)
◇New Configuration	Configurationの新規設定
◇View/Add Configuration	Configurationの追加設定、表示
◇Clear Configuration	Configurationのクリア
◇Select Boot Drive	起動するロジカルドライブを選択する
◇Initialize	ロジカルドライブ初期化
◇Objects	各種設定
◇Adapter	ディスクアレイコントローラ設定
◇Sel. Adapter	アダプタの選択
●Rebuild Rate	30
●Chk Const Rate	30
●FGI Rate	30
●BGI Rate	30
●Write Policy	WT
●Read Ahead	On
●Bios State	Enable
●Stop on Error	No
●Fast Init	Enable
●Auto Rebuild	On
●Auto Resume	Enable
●Disk Coercion Factoty Default	1GB
◇Logical Drive	ロジカルドライブ操作
◇Logical Drives	ロジカルドライブの選択(複数ロジカルドライブが存在)
◇Initialize	ロジカルドライブの初期化
◇Check Consistency	ロジカルドライブの冗長性チェック
◇View/Update Parameters	ロジカルドライブ情報表示
・ RAID	RAIDレベルの表示
・ SIZE	ロジカルドライブの容量表示
・ Stripe SIZE	ストライプサイズの表示
・ #Stripes	ロジカルドライブを構成しているハードディスクドライブ数を表示
・ State	ロジカルドライブの状態表示
・ Spans	スパンの設定状態表示
・ Write Cache	ライトキャッシュの設定表示
・ Read Ahead	リードアヘッドの設定表示
◇Physical Drive	物理ドライブの操作
◇Physical Drive Selection Menu	物理ドライブの選択
◇Make HotSpare	オートリビルド用ホットスペアディスクに設定

メニュー	説明
◇Force Online	ディスクを強制的にオンラインにする
◇Force Offline	ディスクを強制的にオフラインにする
◇Device Identification	ハードディスクドライブ情報の表示
・ Device Type	デバイス種類
・ Capacity	容量
・ Product ID	型番
・ Revision No.	レビジョン
◇Rebuild	リビルド実行
◇Check Consistency	ロジカルドライブの冗長性チェック

Setup Utility操作手順

Configurationの新規作成/追加作成



1. LSI Logic Software RAID Setup Utilityを起動する。
2. TOPメニュー (Management Menu)より、「Configure」→「New Configuration」を選択する。追加作成の場合は、「View/add Configuration」を選択する。



重要

- 「New Configuration」でConfigurationを作成の場合、既存のコンフィグレーション情報がクリアされます。既存のコンフィグレーション情報に追加作成の場合は、「View/add Configuration」を選択してください。
- 「Easy Configuration」ではRAID1のスパンの作成、ロジカルドライブ容量の設定ができません。「New Configuration」か「View/Add Configuration」で作成してください。

3. 確認のメッセージ (Proceed?) が表示されるので、「Yes」を選択する。

SCAN DEVICEが開始され(画面下にスキャンの情報が表示されます)、終了すると、「New Configuration - ARRAY SELECTION MENU」画面が表示されます。

New Configuration - ARRAY SELECTION MENU

PORT#	
0	■ READY
1	■ READY
2	
3	
4	
5	
6	

4. カーソルキーでバックしたいハードディスクドライブにカーソルを合わせ、スペースキーを押す。

ハードディスクドライブが選択されます (選択ハードディスクドライブの表示が「READY」から「ONLIN」になります)。

New Configuration - ARRAY SELECTION MENU

PORT#	
0	■ ONLIN A00-00
1	■ ONLIN A00-01
2	
3	
4	
5	
6	

5. <F10>キーを押して、Select Configurable Array(s)を設定する。
6. スペースキーを押す。

SPAN-1が設定されます。

Select Configurable Array(s)

<table border="1"> <tbody> <tr> <td>A-0</td> </tr> <tr> <td>SPAN-1</td> </tr> </tbody> </table>	A-0	SPAN-1
A-0		
SPAN-1		

7. <F10>キーを押してロジカルドライブの作成を行う。

「Logical Drives Configure」画面が表示されます。(下図は、ハードディスクドライブ2台、RAID1を例にしています)

Logical Drives Configured					
LD	RAID	Size	#Stripes	StrpSz	Status
0	1	xxxMB	2	64KB	ONLINE

Logical Drive 0	
RAID = 1	
Size = xxxMB	
DWC = On	
RA = On	
Accept	
Span = NO	

8. カーソルキーで「RAID」、「Size」、「DWC」、「RA」、「Span」を選択し、<Enter>キーで確定させ、各種を設定する。

(1) 「RAID」: RAIDレベルの設定を行います。

パラメータ	備考
0	RAID0
1	RAID1
10	RAID1のスパン

バックを組んだHDDの数によって選択可能なRAIDレベルが変わります。



Diskを3台以上バックした場合、[RAID5]の選択画面が表示されますが、本装置では[RAID5]をサポートしておりません。

(2) 「Size」: ロジカルドライブのサイズを指定します。ディスクアレイコントローラ1枚で最大40個のロジカルドライブが作成できます。

(3) 「DWC」: Disk Write Cacheの設定を行います。

パラメータ	備考
Off*	ライトスルー
On	ライトバック

* 推奨設定

(4) 「RA」: Read Aheadの設定を行います。

パラメータ	備考
Off*	先読みを行わない
On	先読みを行う

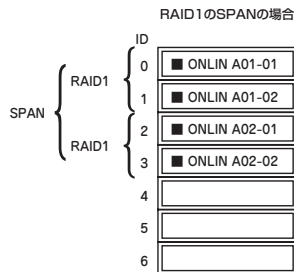
* 推奨設定

(5) 「Span」：Span設定を行います。

パラメータ	備考
SPAN=NO*	Span設定を行わない
SPAN=YES	Span設定を行う

* 推奨設定

SPAN実行時は、パックを組む時に図の様に2組以上の同一パックを作成します。



9. すべての設定が完了したら、「Accept」を選択して、<Enter>キーを押す。

ロジカルドライブが生成され、「Logical Drive Configured」画面にロジカルドライブが表示されます。

10. ロジカルドライブを生成したら、<Esc>キーを押して画面を抜け、「Save Configuration?」画面まで戻り、「Yes」を選択する。

Configurationがセーブされます。

11. Configurationのセーブ完了メッセージが表示されたら、<Esc>キーでTOPメニュー画面まで戻る。

12. TOPメニュー画面より「Objects」→「Logical Drive」→「View/Update Parameters」を選択してロジカルドライブの情報を確認する。

13. TOPメニュー画面より「Initialize」を選択する。

14. 「Logical Drives」の画面が表示されたら、イニシャライズを行うロジカルドライブにカーソルを合わせ、スペースキーを押す。

ロジカルドライブが選択されます。

15. ロジカルドライブを選択したら、<F10>キーを押してInitializeを行う。

実行確認画面が表示されるので、「Yes」を選択するとInitializeが実行されます。

「Initialize Logical Drive Progress」画面のメータ表示が100%になったら、Initializeは完了です。

16. Initializeを実施済みのロジカルドライブに対して、整合性チェックを行う。

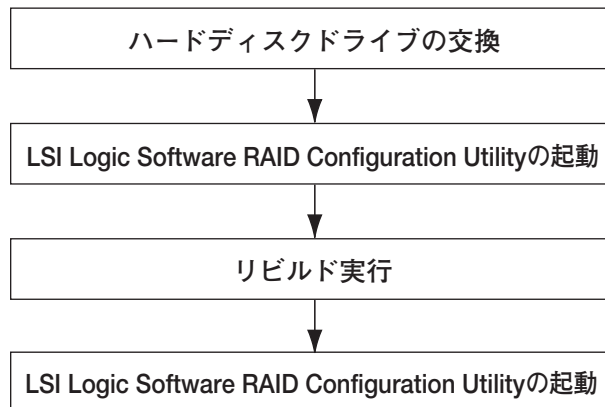
詳細な実行方法は「整合性チェック」(164ページ)を参照してください。

17. <Esc>キーでTOPメニューまで戻って、ユーティリティを終了する。



コンフィグレーションの作成を行った時は、必ず、整合性チェックを実行してください。

マニュアルリビルド



1. ハードディスクドライブを交換し、装置を起動する。
2. LSI Logic Software RAID Setup Utilityを起動する。
3. TOPメニューより、「Rebuild」を選択する。

「Rebuild -PHYSICAL DRIVES SELECTION MENU」画面が表示されます。

Rebuild - PHYSICAL DRIVES SELECTION MENU

PORT#	
0	■ ONLIN A00-00
1	■ FAIL A00-01
2	
3	
4	
5	
6	

4. 「FAIL」になっているHDDにカーソルを合わせ、スペースキーで選択する。(複数のハードディスクドライブを選択可能(同時リビルド))

ハードディスクドライブが選択されると、「FAIL」の表示が点滅します。

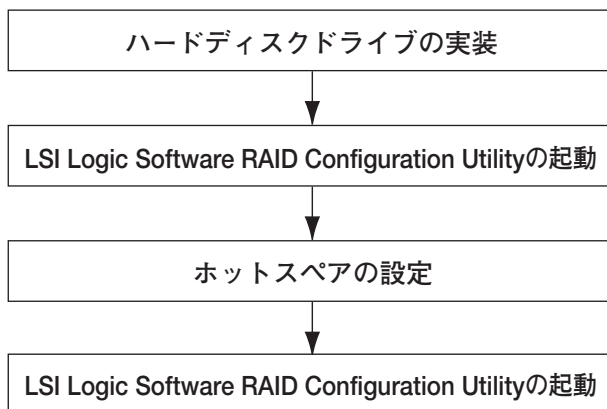
5. ハードディスクドライブの選択が完了したら、<F10>キーを押してリビルドを実行する。
6. 確認の画面が表示されるので、「Yes」を選択する。

リビルドがスタートします。

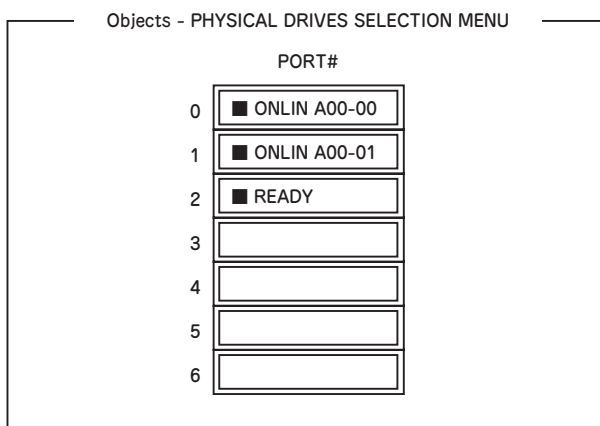
「Rebuild Physical Drives in Progress」画面のメータ表示が100%になったらリビルド完了です。

7. <Esc>キーでTOPメニューまで戻って、LSI Logic Software RAID Setup Utilityを終了する。

ホットスペアの設定

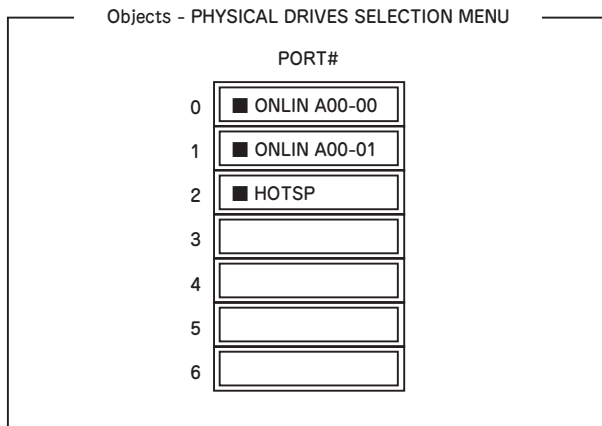


1. ホットスペア用のハードディスクドライブを実装し、本体装置を起動する。
2. LSI Logic Software RAID Configuration Utilityを起動する。
3. TOPメニューより、「Objects」→「Physical Drive」を選択する。
「Objectsts - PHYSICAL DRIVE SELECTION MENU」画面が表示されます。



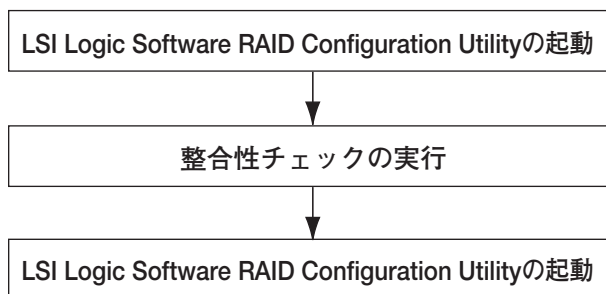
4. ホットスペアに設定するハードディスクドライブにカーソルを合わせて、<Enter>キーを押す。
5. 「Port #X」の画面が表示されるので、「Make HotSpare」を選択する。
6. 確認の画面が表示されるので、「Yes」を選択する。
ハードディスクドライブの表示が、「HOTSP」に変更されます。

7. <Esc>キーでTOPメニューまで戻って、LSI Logic Software RAID Setup Utilityを終了する。



- ホットスペアの設定を取り消すには、「Objects」→「Physical Drive」→「Port #X」→「Force Offline」を選択します。
- ホットスペア用ハードディスクドライブが複数(同一容量)ある場合は、CH番号/ID番号が小さいハードディスクドライブから順にリビルドが実施されます。

整合性チェック



1. LSI Logic Software RAID Setup Utilityを起動する。
2. TOPメニューより、「Check Consistency」を選択する。
「Logical Drives」の画面が表示されます。
3. 整合性チェックを行うロジカルドライブにカーソルを合わせ、スペースキーを押す。
ロジカルドライブが選択されます。
4. ロジカルドライブを選択したら、<F10>キーを押して、整合性チェックを行う。

5. 確認画面が表示されるので、「Yes」を選択する。

整合性チェックが実行されます。

「Check Consistency Progress」画面のメータ表示が100%になったら、整合性チェックは完了です。

6. <Esc>キーでTOPメニューまで戻って、LSI Logic Software RAID Setup Utilityを終了する。



コンフィグレーションの作成を行った時は、必ず、整合性チェックを実行してください。

その他

(1) Clear Configuration

コンフィグレーション情報のクリアを行います。TOPメニューより、「Configure」→「Clear Configuration」を選択します。「Clear Configuration」を実行すると、ディスクアレイコントローラ、ハードディスクドライブのコンフィグレーション情報がクリアされます。「Clear Configuration」を実行すると、ディスクアレイコントローラのすべてのチャンネルのコンフィグレーション情報がクリアされます。



- ディスクアレイコントローラとハードディスクドライブのコンフィグレーション情報が異なる場合、(ディスクアレイコントローラ不具合による交換時以外)ディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報を選んだ場合、コンフィグレーションが正常に行えません。その場合には、「Clear Configuration」を実施して、再度コンフィグレーションを作成してください。
- ロジカルドライブ単位の削除は、LSI Logic Software RAID Setup Utilityではできません。

(2) Force Online

Fail状態のハードディスクドライブをオンラインにすることができます。TOPメニューより、「Objects」→「Physical Drive」→ハードディスクドライブ選択→「Force Online」

(3) Rebuild Rate

Rebuild Rateを設定します。

TOPメニューより、「Objects」→「Adapter」→「Rebuild Rate」を選択。
0%～100%の範囲で設定可能。デフォルト値(設定推奨値)30%。

(4) ハードディスクドライブ情報

ハードディスクドライブの情報を確認できます。

TOPメニューより、「Objects」→「Physical Drive」→ハードディスクドライブ選択→「View Drive Information」を選択。

